

1. 交流ゾーン町民間き取り調査（ヒアリング）の実施概要

日時： 平成 30 年 2 月 3 日（土曜）、2 月 4 日（日曜）

会場： 大熊町 いわき出張所

目的： 大川原地区に整備する交流ゾーンのあり方、及びふるさと大熊町に対する
思いに関するヒアリング

参加： 町からご案内した方のうち、参加希望をいただいた 98 名の皆様

班分け： 1 日目（2 月 3 日）：平成 27 年の意向調査で「帰還したい」又は「判断が
つかない」とされた皆様 68 名

2 日目（2 月 4 日）：平成 27 年の意向調査で「帰還しないが大熊町とのつ
ながりを持ち続けたい」とされた皆様 30 名

2. 本記録の構成（目次）

P1	2/3	午前の部	A 班の記録
P7		〃	B 班の記録
P11		〃	C 班の記録
P14		〃	D 班の記録
P19	2/3	午後の部	A 班の記録
P23		〃	B 班の記録
P27		〃	C 班の記録
P31		〃	D 班の記録
P35	2/4	午前の部	A 班の記録
P39		〃	B 班の記録
P43		〃	C 班の記録
P48	2/4	午後の部	A 班の記録
P52		〃	B 班の記録
P56			2 月 3 日のヒアリング結果概要
P57			2 月 4 日のヒアリング結果概要

日 時：平成 30 年 2 月 3 日（土曜）10:00～11:30

対応者：大熊町企画調整課 高田課長補佐

記録員：UR都市機構事業企画総括課 秋山主幹

班 名：A班

出席者数：9名

■ヒアリングでの主な意見

【全体のテーマ】

- 全体的な話として、役場本館は仮設でもよい。また、医療福祉施設は道路沿いの方がよい。

【交流ゾーンに望むもの】

- 郵便局や金融機関、ガソリンスタンドが近くにあった方がよい。
- パークゴルフの話が多く、100 人規模で集まるので、宿泊や汗を流して宴会できる場所があったらよい。ニュースポーツを行うためのスペースとして体育館があるとよい。

【特性】

- 大熊町は梨やキウイが美味しい。
- 工業団地なので街灯が多い。

【大熊町との繋がり・交流】

- 行政区の班の集まりが、多い時は月に 2 回程度や年に 20 回程度交流を持つこともある。
- 外から来る方、人のつながりが大熊はよい。

【その他】

- 隣の復興住宅で同じような建物が並ぶのであれば、100 坪ぐらいの分譲地があれば自分達で建物を建てる。
- 体育館があった方がよい(ニュースポーツ?)
- 行政区 1～2、班の集まりがある(2 回/日 郡山)年 20 回程度
- 街灯多かった
- 上下水安かった(公共サービス充実)
- 外に出てみると「人」が良かった(老人会での体験)



■付箋内容

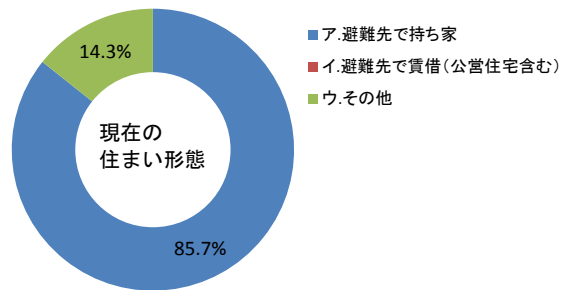
- 山菜、釣り、アユ、ヤマメ、イワナ、赤腹(ウグイ)、コイ
- ナシ、キウイが美味しい
- 学校は?
- 役場は仮設でもよいのでは?(下野上では?)
- 学校も大川原でなくても
- どこを中心にすべきか?(駅や旧役場では?)
- スポーツセンター
- 自炊できる宿泊
- パークゴルフなど 2-3 回/年
- パークゴルフは?(グラウンドゴルフでも)
- パークゴルフ+宿泊、宴会できる場所、100 名規模
- GS
- 郵便局、金融機関
- 医療福祉施設は 67 号線沿いの方がよいのでは?
- 復興住宅、おしきせでないものがよい
- 100 坪ぐらいの分譲地があれば自分で建てた方が(戸建ての場合)
- 図書館(子供向けだけでなく)

■事前アンケート集計結果について（A班）回収7名

【生活拠点について】

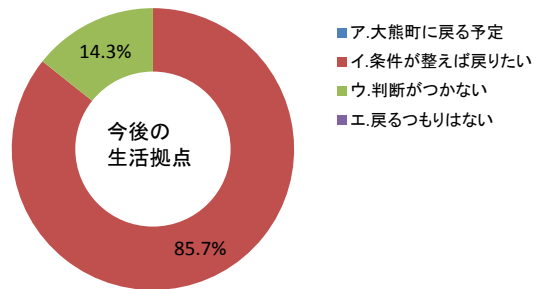
①現在のお住まいの形態について

	回答数	構成比
ア. 避難先で持ち家	6	85.7%
イ. 避難先で賃借（公営住宅含む）	0	0.0%
ウ. その他	1	14.3%
合計	7	100.0%



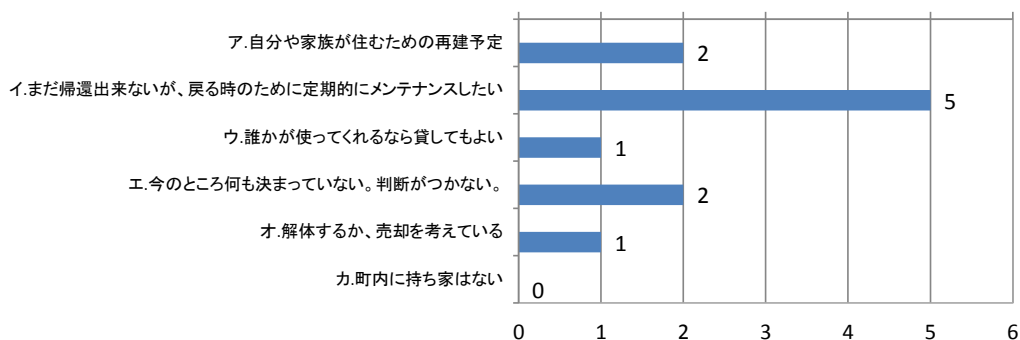
②今後の生活の拠点について

	回答数	構成比
ア. 大熊町に戻る予定	0	0.0%
イ. 条件が整えば戻りたい	6	85.7%
ウ. 判断がつかない	1	14.3%
エ. 戻るつもりはない	0	0.0%
合計	7	100.0%



③大熊町内のご自宅について（複数回答可）

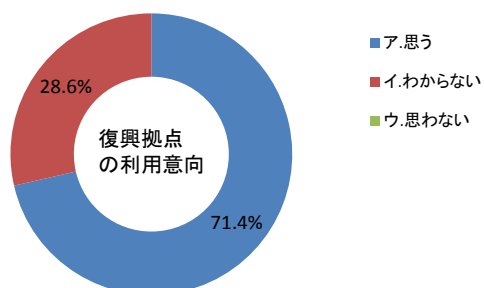
	回答数
ア. 自分や家族が住むための再建予定	2
イ. まだ帰還出来ないが、戻る時のために定期的にメンテナンスしたい	5
ウ. 誰かが使ってくれるなら貸してもよい	1
エ. 今のところ何も決まっていない。判断がつかない	2
オ. 解体するか、売却を考えている	1
カ. 町内に持ち家はない	0
合計	11



【復興拠点について】

④復興拠点ができたら、あなたは利用する／したいと思いますか。

	回答数	構成比
ア. 思う	5	71.4%
イ. わからない	3	28.6%
ウ. 思わない	0	0.0%
合計	8	100.0%

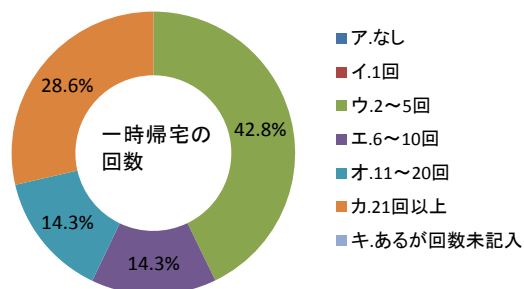


※1人は下野上なら「ア」大川原なら「イ」という複数回答

【大熊町とのつながりについて】

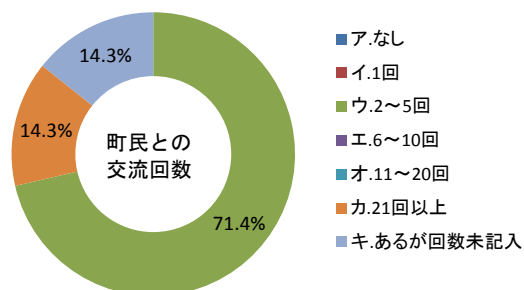
⑤昨年（平成 29 年）中、一時帰宅で大熊町内に何回程度立ち入りましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1 回	0	0.0%
ウ. 2～5 回	3	42.8%
エ. 6～10 回	1	14.3%
オ. 11～20 回	1	14.3%
カ. 21 回以上	2	28.6%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	7	100.0%



⑥昨年（平成 29 年）中、大熊町民と何らかの交流の機会がありましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1 回	0	0.0%
ウ. 2～5 回	5	71.4%
エ. 6～10 回	0	0.0%
オ. 11～20 回	0	0.0%
カ. 21 回以上	1	14.3%
キ. あるが回数未記入	1	14.3%
合計	7	100.0%



【その他意見】※アンケートに手書きで記載されていた内容

- ・（町民との交流の機会は、）葬式。
- ・復興住宅入居希望。
- ・（震災前の大熊町で良く人と会ったり、しゃべったりしていた場所は、）老人会、図書館。
- ・（現在の生活で交流の場所や機会は）ない

日 時：平成 30 年 2 月 3 日（土曜）10:00～11:30

対応者：大熊町企画調整課 石田係長

記録員：UR都市機構震災復興支援室 後藤課長

班 名：B班

出席者数：11名

■ヒアリングでの主な意見

【今日の位置づけ】

- ・ 今日参加した私たちだけの意見に左右されるべきではない。広く町のためになる施設にしてほしい。

【皆さんのご自宅の状況】

- ・ 解体はしていない。どうしようか悩んでいる。
- ・ 7年前のままの状態。ゆくゆくは解体撤去。
- ・ ときどき帰宅して手入れをしているが、徐々に痛んでいる。
- ・ 一時帰宅のたびに家の手入れをするが、いつ帰れるのかと切ない気持ちになる。滞在時間は1時間程度。

【ふるさと大熊に望むこと】

- ・ いま現地がどうなっているか知らせてほしい。タブレットや広報で、もっと情報発信を。そして、それに対し町民の声をフィードバックする仕組みがあるとよい。
- ・ 東電とADRを通じて協議しているが、徐々に引き気味になっているのを感じる。被災10年を機に色々切り捨てられるのではないか不安。
- ・ 自分の家は特定復興再生拠点区域に入ったが、先行きが見えない。
- ・ きっかけが大事。帰町しようと思うきっかけが要る。それがないと、地元への気持ちが途切れてしまう。

【町民のつながり、懐かしい風景など】

- ・ 大熊町といえば6号沿いの風景。特におおちゃんの熊のマーク（標識）を見ると「大熊町に帰ってきた」と実感する。
- ・ 懐かしいのは自分の家。大熊は広くて、ゆったりとした生活ができた。
- ・ 交流会が頻繁に実施されていて、よいと思う。
- ・ 梨やキウイが懐かしい。梨の共同農園を設置すれば、皆が喜ぶのでは。

【交流ゾーンに望むもの】

- ・ 店舗経営は、町民が少なく厳しいはず。行政の支援が必要。
- ・ 浪江の十日市に行ったらすごい人出だった。しかし、その日だけの賑わいとどまっている。トルコキキョウの栽培などに取り組んでいるようだが、やはり産業の育成が大事。人がいないとどんな商売も成り立たない。
- ・ 人が集まる・集める「きっかけ」になる場所にしたい。一過性ではないイベントを企画するなど、「企画」が大事。
- ・ 都会的な施設をつくってもダメ。大熊らしい、田舎らしいもののほうが、この場所に似合う。
- ・ 「ここにしかない」という工夫が必要。つまるところ運営する人次第なので、「人」を養成するところからスタートしてはどうか。
- ・ 店舗の客を増やすため、外から人を呼び込むが必要。
- ・ 一杯飲んで仲間と語り合う場所がほしい。そのまま一泊して、翌日は地域の活動をしたい。
- ・ ひとりでも参加できるスポーツ・健康教室のようなものがあるといい。マンツーマンで教えてくれると参加しやすい。

【産業としての医療・福祉】

- 大熊は、原発に代わる産業づくりが大事なはず。新しい産業として、高齢者向けの医療・介護・福祉を考えてはどうか。高齢者医療・認知症外来が充実した病院は世の中に少なく、全国から人が集まる。

【人を集める企画とは】

- 交流施設でのイベント（例）お祭り／新喜劇／利き酒会／地ビールづくり／地酒めぐりツアー

【その他】

- 交通手段は、自家用車。鉄道はあまり使わない。
- 公営住宅にはいつ入れるのか。
- 思い切って、6号より西側の除染は全部やります、と打ち出したらどうか。



■付箋内容

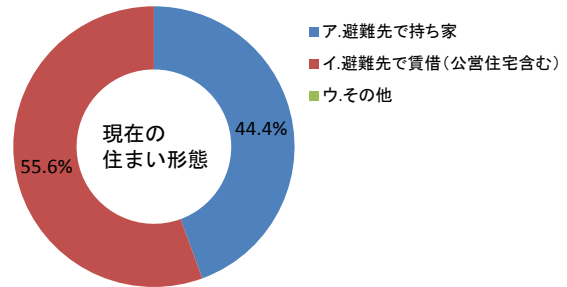
- 一部の人だけのためではなく、みんなのために
- 情報共有を (タブレットや広報)
- まち全体がみえないと
- まちに新しい産業が必要
- 帰還困難区域がどうなるか不安、見えてない
- 他にない高齢者向けの産業で、人を集める
- まず、人を育成する養成する (例) 介護などのテーマで
- 除染をもっと進めるべき
- 6号からのアクセス大事
- 人を集め(ま)るきっかけになる場所
- 客を増やす工夫がいる
- イベント企画大事
- 商品に工夫を (ここにしかないもの)
- 都会的はダメ (地元らしく)
- (マンツーマンの)健康サービス講習会
- お祭りをここで、地酒めぐり、新喜劇、利き酒会、地ビール

- ・ 一杯のんで語りあう場所
- ・ そして翌日はボランティア
- ・ 梨を共同農園で
- ・ 出店する人に支援を

■事前アンケート集計結果について（B班）回収9名
【生活拠点について】

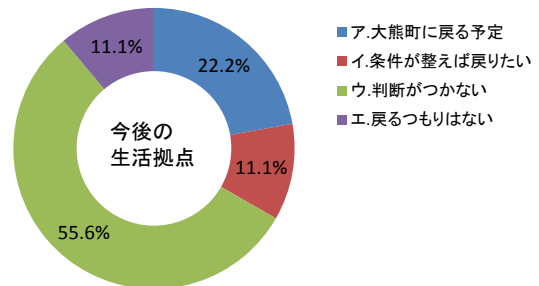
①現在のお住まいの形態について

	回答数	構成比
ア. 避難先で持ち家	4	44.4%
イ. 避難先で賃借（公営住宅含む）	5	55.6%
ウ. その他	0	0.0%
合計	9	100.0%



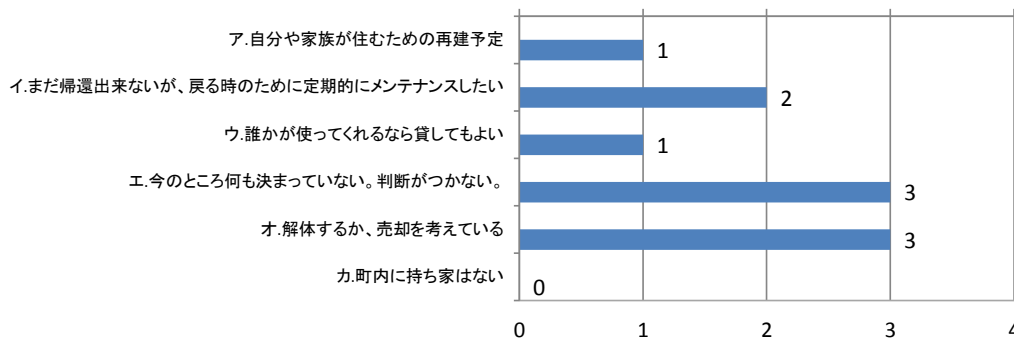
②今後の生活の拠点について

	回答数	構成比
ア. 大熊町に戻る予定	2	22.2%
イ. 条件が整えば戻りたい	1	11.1%
ウ. 判断がつかない	5	55.6%
エ. 戻るつもりはない	1	11.1%
合計	9	100.0%



③大熊町内のご自宅について（複数回答可）

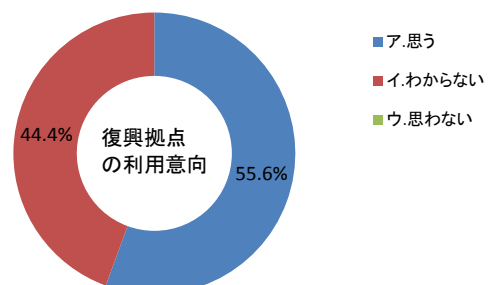
	回答数
ア. 自分や家族が住むための再建予定	1
イ. まだ帰還出来ないが、戻る時のために定期的にメンテナンスしたい	2
ウ. 誰かが使ってくれるなら貸してもよい	1
エ. 今のところ何も決まっていない。判断がつかない	3
オ. 解体するか、売却を考えている	3
カ. 町内に持ち家はない	0
合計	10



【復興拠点について】

④復興拠点ができたら、あなたは利用する／したいと思いますか。

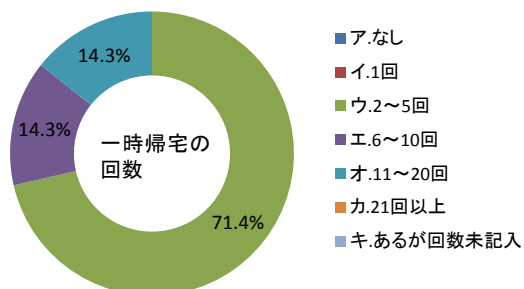
	回答数	構成比
ア. 思う	5	55.6%
イ. わからない	4	44.4%
ウ. 思わない	0	0.0%
合計	9	100.0%



【大熊町とのつながりについて】

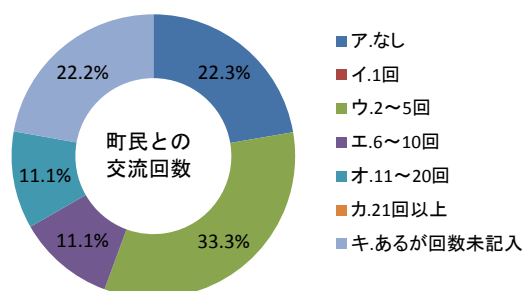
⑤昨年（平成 29 年）中、一時帰宅で大熊町内に何回程度立ち入りましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1 回	0	0.0%
ウ. 2～5 回	5	71.4%
エ. 6～10 回	1	14.3%
オ. 11～20 回	1	14.3%
カ. 21 回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	7	100.0%



⑥昨年（平成 29 年）中、大熊町民と何らかの交流の機会がありましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	2	22.3%
イ. 1 回	0	0.0%
ウ. 2～5 回	3	33.3%
エ. 6～10 回	1	11.1%
オ. 11～20 回	1	11.1%
カ. 21 回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	2	22.2%
合計	9	100.0%



【その他意見】

- ・（大熊町の自宅については、）復興拠点のあり方によって考え方が変わってくる。
- ・（現在の生活で交流の場所や機会は）ない。
- ・288 号線、中屋敷。
- ・休みが多い。
- ・（町民との交流の機会については、）パークゴルフや大熊町囲碁会、区総会、ソフトボール。

日 時：平成 30 年 2 月 3 日（土曜）10:00～11:30
 対応者：大熊町産業建設課 東主任主査
 記録員：UR都市機構復興拠点事業推進課 土田主査
 班 名：C班
 出席者数：10名

■ヒアリングでの主な意見

【まちの復興について】

- ・ 大きな考え方になるが、大川原をはじめとし、それを町全体に波及させてほしい。
- ・ 若い人が来るような広報活動や段取りをしてもらいたい。
- ・ 住んで良かったなど言えるような町にしてほしい。

【交流ゾーンに臨むもの】

- ・ 町に帰ってきたときに必要なものが何かを考えたら、お店という意見が多かった。
- ・ 日用品を遠くまで買いに行くのは大変なのでそういうものが身近にあってほしい。
- ・ 生物や魚もそこで買えるようになれば暮らしが豊かになるだろう。
- ・ 物販店舗であらゆるニーズに応える業態や品揃えの確保は難しいかもしれないので、そういった隙間を埋めるために移動販売を使ってみてはどうか。そうすれば小回りが利く。
- ・ ホールはどういった建物にするかという点、67号線から見えるようにするとともに、一部の壁をガラス張りにして、中が見えるようにした方がよい。形は丸がよいと思う。
- ・ 会議室のような仕切られた部屋ではなく、少し開けた場所でお話したりできる場所、町に帰ってきた人だけではなく別の場所にいる人も集まれるような広さが必要。
- ・ 身体を動かせる場所があるとよい。
- ・ 若い人たちにも来てもらうために、授乳スペースが必要。

【交流ゾーンでの活動】

- ・ カラオケサークル、民謡サークル活動を昔やっていたので、そういったものがまたできるとよい。
- ・ 運動に関連するイベントを行って、人が集まってくるようにすればよい。

【その他】

- ・ 色々な人に来てもらうために、足となる交通手段やロータリーの確保も必要。



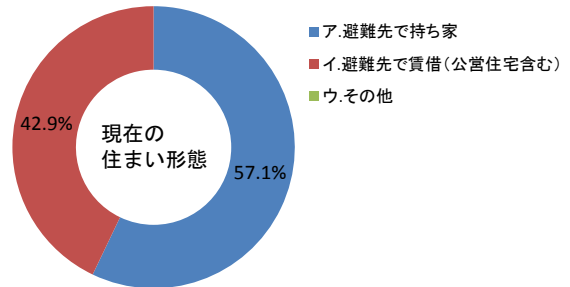
■付箋内容

- ・ 準備宿泊の際に近くに買い物ができる場所、細々としたもの(コンビニ、理容、電気)
- ・ 移動販売 頼めば品物増やしてくれる、小回りが利く
- ・ 普段の買い物ができるお店(小売)が暮らしに必要
- ・ 生活用品は近くで買いたい(運ぶのは大変)
- ・ お魚を売っているお店があるとよい
- ・ 体を動かす場所、イベント
- ・ カラオケ、民謡、サークルの部活ができるように
- ・ ホール丸の形よいと思う、通りから見える部分ガラスで中見えるように
- ・ 日常の足の確保 復興支援バス、バスロータリー、動線
- ・ 大川原から町全体へ
- ・ 若い人が戻ってくる広報、段取り
- ・ 住んで良かったと思えるまち
- ・ 談話室で交流、移住した人も集まれる広さ、大きさ
- ・ オープンスペースで談話
- ・ 授乳スペース必要

■事前アンケート集計結果について (C班) 回収7名
【生活拠点について】

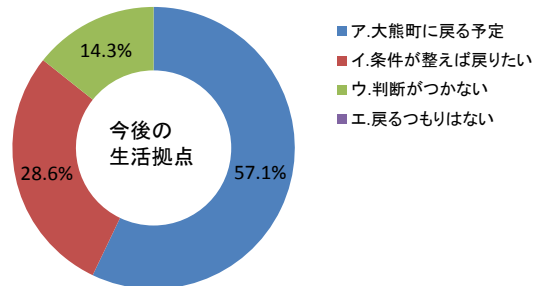
①現在のお住まいの形態について

	回答数	構成比
ア. 避難先で持ち家	4	57.1%
イ. 避難先で賃借(公営住宅含む)	3	42.9%
ウ. その他	0	0.0%
合計	7	100.0%



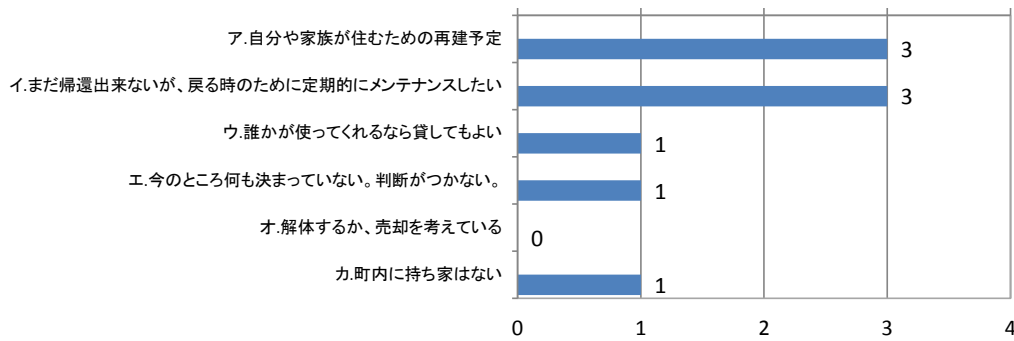
②今後の生活の拠点について

	回答数	構成比
ア. 大熊町に戻る予定	4	57.1%
イ. 条件が整えば戻りたい	2	28.6%
ウ. 判断がつかない	1	14.3%
エ. 戻るつもりはない	0	0.0%
合計	7	100.0%



③大熊町内ご自宅の今後の考えについて (複数回答可)

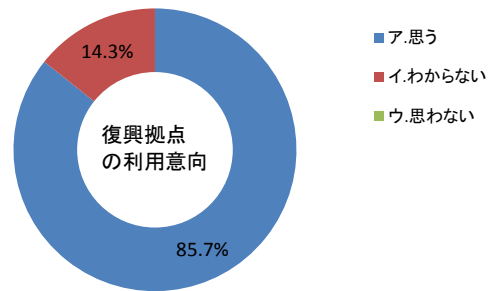
	回答数
ア. 自分や家族が住むための再建予定	3
イ. まだ帰還出来ないが、戻る時のために定期的にメンテナンスしたい	3
ウ. 誰かが使ってくれるなら貸してもよい	1
エ. 今のところ何も決まっていない。判断がつかない	1
オ. 解体するか、売却を考えている	0
カ. 町内に持ち家はない	1
合計	9



【復興拠点について】

④復興拠点ができたら、あなたは利用する／したいと思いますか。

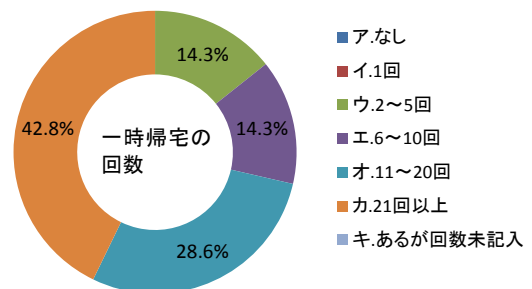
	回答数	構成比
ア. 思う	6	85.7%
イ. わからない	1	14.3%
ウ. 思わない	0	0.0%
合計	7	100.0%



【大熊町とのつながりについて】

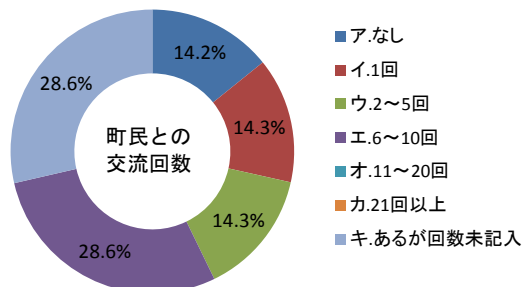
⑤昨年（平成29年）中、一時帰宅で大熊町内に何回程度立ち入りましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1回	0	0.0%
ウ. 2～5回	1	14.3%
エ. 6～10回	1	14.3%
オ. 11～20回	2	28.6%
カ. 21回以上	3	42.8%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	7	100.0%



⑥昨年（平成29年）中、大熊町民と何らかの交流の機会がありましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	1	14.2%
イ. 1回	1	14.3%
ウ. 2～5回	1	14.3%
エ. 6～10回	2	28.6%
オ. 11～20回	0	0.0%
カ. 21回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	2	28.6%
合計	7	100.0%



【その他意見】

- ・（大熊町のことを懐かしく思う時は、）桜や組合。
 - ・（復興拠点にあったらよいお店やサービスは、） 医院、集会所、理美容院、歯医者、工務店。

日 時：平成 30 年 2 月 3 日（土曜）10:00～11:30

対応者：大熊町企画調整課 喜浦主事

記録員：UR リンケージ計画部 立原

班 名：D 班

出席者数：10 名

■ヒアリングでの主な意見

【一時帰宅の目的・頻度等】

- ・ 自宅家屋の様子を見て、掃除や雑草の処理のためや、お墓参りのために一時帰宅している。
(数人)
- ・ 大川原ですでに畑仕事をしており、毎日通っている。(一人)
- ・ 大川原で仕事をしているので、毎日通勤している。(一人)
- ・ 中間貯蔵施設用地内に屋敷があったので、帰りにくい。
- ・ 毎日から月に数回、これまでに 5・6 回まで、線量や自宅の位置などの条件により、一時帰宅の頻度は異なる。線量の高い所は立入りが難しいため、次第に帰る回数も減り解体を決めた。
- ・ 小学校、中学校の子供は震災前の広い屋敷の思い出が強く残っているが、20 歳までは一時帰宅できない。
- ・ 今誰がどこにいるか（避難しているか）分からない。
- ・ 一時帰宅は日帰りで、娘のところへ寄ったり、時間があれば周辺の町を見て回ることはあるが、泊りがけで来ることはない。

【必要またはあったら嬉しい施設・機能】

- ・ 大川原に何か作るのであれば、できたら身には来ると思う。
- ・ 食べるところがどこにもないので、食事ができる店が欲しい。多くの食堂は土日が休みなので使えない。一時帰宅は道が空いている週末に来ることが多いので、週末に営業している必要がある。
- ・ 一日自宅の掃除や雑草の処理をすると、くたくたになるため休憩できる場所が欲しい。今の休憩所はパイプ椅子しかないので、畳があって少し横になって仮眠できる休憩所があると助かる。
- ・ 温浴施設もあれば使うかも知れない。
- ・ ただし、今の状態では宿泊することは考えられず、休憩所でゆっくり休んで仮眠をとって帰りたい。
- ・ 将来ここに住む場合、高齢者が多いので専門的に農業をやるというよりは畑仕事ができる共有農園や家庭菜園のような場所が欲しい。
- ・ 農園では作物ができるので、おすそ分けのような感覚で直売できるお店があったらよい。
- ・ 採れた野菜を使って皆で料理ができる調理室があるといい。ピザ窯を自作したことがあるが、そのような皆が集まって一緒に作業して食事できるような施設が必要だ。
- ・ 今後お年寄りの方が多く来るという事で、道路、店、建物はすべてバリアフリーで作ってほしい。急病になった時にすぐに搬送ができる体制、対応できる施設が必要だ。
- ・ 運動施設はパークゴルフがあるとよい。但し、温浴施設と一緒にあるべきだ。

【大熊との繋がりという言葉で思い浮かべる言葉】

- ・ 例えば日陰山などの高い所に登って町を見下ろした印象がすごく残っている。
- ・ カラオケスナックやラーメン屋など、昔の馴染の店が再開できると嬉しい。
- ・ 繋がりやはり「なじみの人」であり、「集落」「自宅」である。



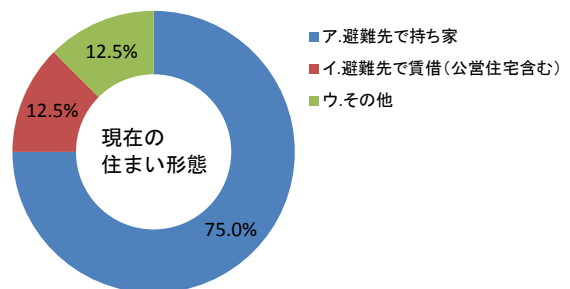
■付箋内容

- ・ 食事処(土・日)
- ・ 休憩処(タタミ)→宿泊はしない
- ・ 喫茶店
- ・ 調理室、ピザ釜
- ・ パークゴルフ+温浴
- ・ 直売所←共同農地 菜園
- ・ バリアフリーの道路、お店
- ・ 急病の時の対応
- ・ 日隠山
- ・ カラオケ、スナック、寄り道 (なじみのお店)

■事前アンケート集計結果について (D班) 回収8名
【生活拠点について】

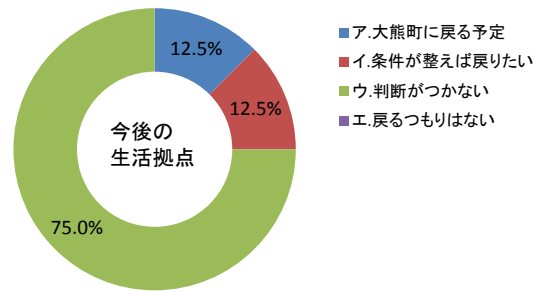
①現在のお住まいの形態について

	回答数	構成比
ア. 避難先で持ち家	6	75.0%
イ. 避難先で賃借 (公営住宅含む)	1	12.5%
ウ. その他	1	12.5%
合計	8	100.0%



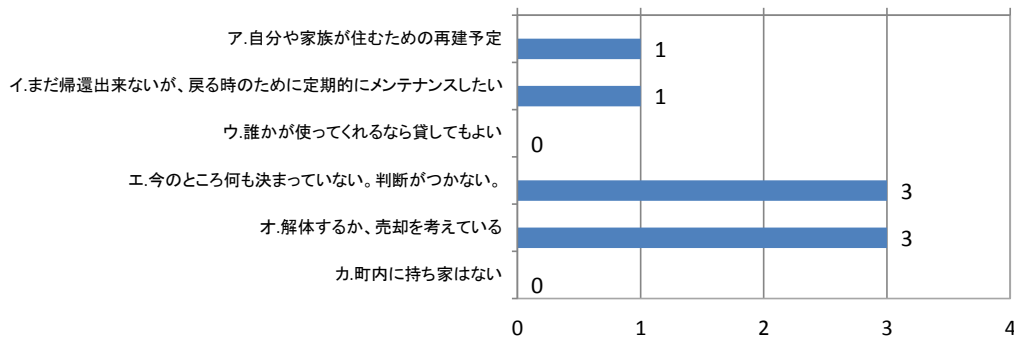
②今後の生活の拠点について

	回答数	構成比
ア. 大熊町に戻る予定	1	12.5%
イ. 条件が整えば戻りたい	1	12.5%
ウ. 判断がつかない	6	75.0%
エ. 戻るつもりはない	0	0.0%
合計	8	100.0%



③大熊町内のご自宅について（複数回答可）

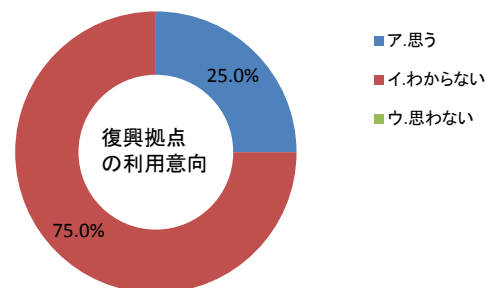
	回答数
ア. 自分や家族が住むための再建予定	1
イ. まだ帰還出来ないが、戻る時のために定期的にメンテナンスしたい	1
ウ. 誰かが使ってくれるなら貸してもよい	0
エ. 今のところ何も決まっていない。判断がつかない	3
オ. 解体するか、売却を考えている	3
カ. 町内に持ち家はなし	0
合計	8



【復興拠点について】

④復興拠点ができたら、あなたは利用する／したいと思いますか。

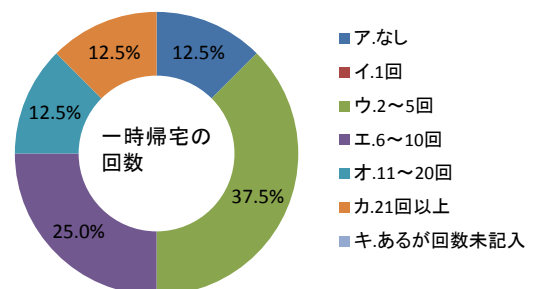
	回答数	構成比
ア. 思う	2	25.0%
イ. わからない	6	75.0%
ウ. 思わない	0	0.0%
合計	8	100.0%



【大熊町とのつながりについて】

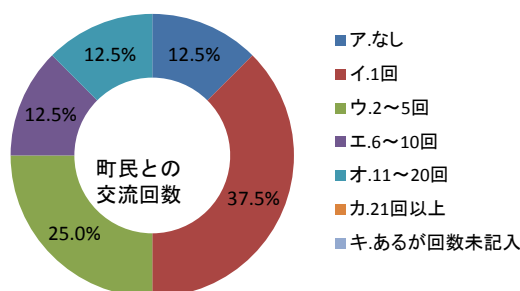
⑤昨年（平成29年）中、一時帰宅で大熊町内に何回程度立ち入りましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	1	12.5%
イ. 1回	0	0.0%
ウ. 2～5回	3	37.5%
エ. 6～10回	2	25.0%
オ. 11～20回	1	12.5%
カ. 21回以上	1	12.5%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	8	100.0%



⑥昨年（平成 29 年）中、大熊町民と何らかの交流の機会がありましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	1	12.5%
イ. 1回	3	37.5%
ウ. 2～5回	2	25.0%
エ. 6～10回	1	12.5%
オ. 11～20回	1	12.5%
カ. 21回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	8	100.0%



【その他意見】

- ・（現在の生活で交流の場書や機会は、）ある。
- ・自宅に戻れない（老後のためにつくった家だが）
- ・5年生活経過して近隣に知人ができたのが毎日の生活である
- ・健康管理を密にして一日一日を過ごしております。他人に迷惑をかけずに元気で最後を迎えたいと思って頑張っています。よろしく御指導お願い致します。
- ・東京電力より5年分の生活費は受領しましたが以後は補償はないのですか。調査の上お知らせ下されれば幸いです。
- ・（帰還する時期は、）仕事と子供の学校のタイミングが一番よい時。
- ・大熊町に先祖代々の土地と家があるので必ず戻る。
- ・当面公営住宅でいずれ検討したい。
- ・自分も子供も思い出がいっぱいあるので、家は倒壊するまでは残しておきたい。
- ・中間貯蔵の目の前で原発に近く、まずは大川原から住むしかない。強風で放射能が飛んでくる。
- ・（大熊町のことを懐かしく思う時は、）自分の家や隣近所や子どもの頃遊んだこと。
- ・生まれてから何十年も色々な人と関わってきたのでお互いに気心が知っている。
- ・先祖代々同じ集落で順番に助け合って長く続いてきたものが原発事故で全て失ってしまった。避難先は知らない人ばかりで孤独、孤立。
- ・（交流の場所や機会は、）双葉郡内の親戚の葬式で顔を合わせることができるととても遠い。
- ・誰もが戻ってきたくような街づくりであれば他の町より、大熊町の方が良いと思う街であれば、楽しいことが多くて、笑ってられる町、使い勝手がよい町（避難先で自分の葬式はやりたくない）、自宅とお墓には帰りたい）
- ・子どもが遊ぶ場所が多く、おしゃれな街。
- ・大熊町は新しくまちづくりを進めることができるので、こんな街に住んでみたかったと今までの概念に無い素晴らしい街がつかれると思います。最初がうまくいくと若者が集まってきます。廃屋になった古い町は思い出の町として残し、これから若者が住む町は新しい発想で建設するべきです。あんなに住みやすい町だったのに原発事故でバラバラに避難した子供がかわいそうです。
- ・家の目の前の私の土地の鉄塔高圧線は邪魔なので撤去して下さい。邪魔で復興できません。
- ・16年12月に解体している。

日 時：平成 30 年 2 月 3 日（土曜）13:00～14:30

対応者：大熊町企画調整課 高田課長補佐

記録員：UR都市機構事業企画総括課 秋山主幹

班 名：A班

出席者数：7名

■ヒアリングでの主な意見

【町全体について】

- ・ 大川原だけではなく、全体として外から人が来てお金を落としてくれるようなものがなければ、この地区はよいが全体として回らないのではないかと。

【交流ゾーンに望むもの】

- ・ 交流ゾーンの機能について、比較的金融機関や新聞屋、飲食店等の店の話、また、美容室のようなことができる人が成人式を行う上でも必要になる。

【帰還について】

- ・ 交流ゾーンについて、帰還する人の意向確認では 10 年 15 年先が、帰還して仕事をしても後継者がいないので帰りたいが実際に帰れるのか。

【大熊町との繋がり・交流】

- ・ 大熊町で駅伝のようなものを行えるとよい。 そういうもので人が交流できる機会を作っていくことがよい。
- ・ 町民に会っているペースについて、年に 1、2 回という人もいれば、年間 33 回程度町民の集い ということで、会合を開くと 30～40 人程度集まるということで幅が広いと感じた。
- ・ 震災前に皆が、小中学校の PTA や少年団など他人と接点を持つ機会をこれまで持っていた。

【特性】

- ・ 懐かしいものとして梨や鮭のような食べ物や熊川や坂下ダムのようなもの、小塚の溜池などの風景が印象に残っている。
- ・ 買物に行っても少し楽になるのではないかと、溜まり場になるような場所になれるとよい。また、玉乃湯の温泉を再開したい。

【交通】

- ・ 生活の移動手段について高齢化になった時にいつまで運転できるかという話が出た。

【その他】

- ・ 高齢化の中でグループホームの話は出たが、医療する人や見守る人がいると不安が払拭される。
- ・ 乗合タクシーでもよいが、買い物にいかずに生協のような宅配サービスで、宅配してくれるものがあればよい。 広野町でそのようなサービスがある。
- ・ 役場職員も常駐できる人がいると分かり易い。



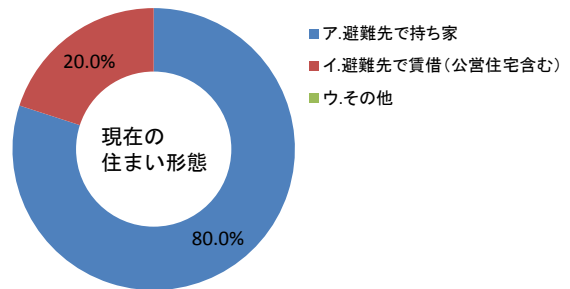
■付箋内容

- 買い物した後の荷物の配送サービス、宅急便
- 宅配サービス(生協的な) パルシステム？(広野はやっている)
- タクシー(交通機関) 乗合いタクシー、自動運転バス
- 町民号 1~2回 ~ 33回 社協、サロン教室、町民のつどい
- 大熊駅伝(育てた方がよい) スーパー、田んぼ、小中学校(PTA)、まつり、スポーツ大会(少年団)
- 玉の湯の再開は？温浴施設(たまり場になるような)
- 熊川の溪流、坂下ダム、小塚のため池、ナシ、キウイ、鮭
- 美容室、理容室(成人式にも対応可)
- パークゴルフ、グランドゴルフ
- 一日過ごせる場所、施設
- 郵便局、金融機関、新聞屋、TOHO、JA
- 居酒屋、カラオケ
- 衣料品、クツ、金物
- 店舗、飲食店
- 外部からの集客の目玉(花？)(広域で)花見山
- 遊休農地の利活用(農地→エコシステム)(ソーラーではなく)
- 帰還意向の平均年齢を考えると、10年、15年先不安
- 周りにどれだけ友人いるか
- グループホーム(できる時期は？)
- 医療
- ケアしてくれる人
- 役場職員にも常駐してほしい
- 獣医、糞尿処理場
- 仕事どうするか(後継者問題)

■事前アンケート集計結果について（A班）回収5名
【生活拠点について】

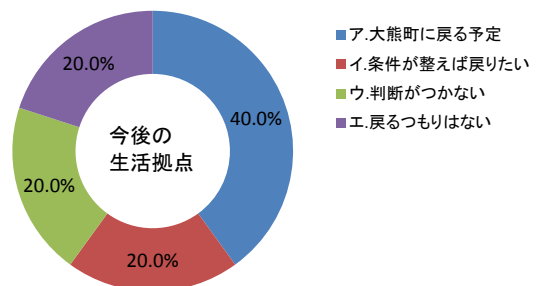
①現在のお住まいの形態について

	回答数	構成比
ア. 避難先で持ち家	4	80.0%
イ. 避難先で賃借（公営住宅含む）	1	20.0%
ウ. その他	0	0.0%
合計	5	100.0%



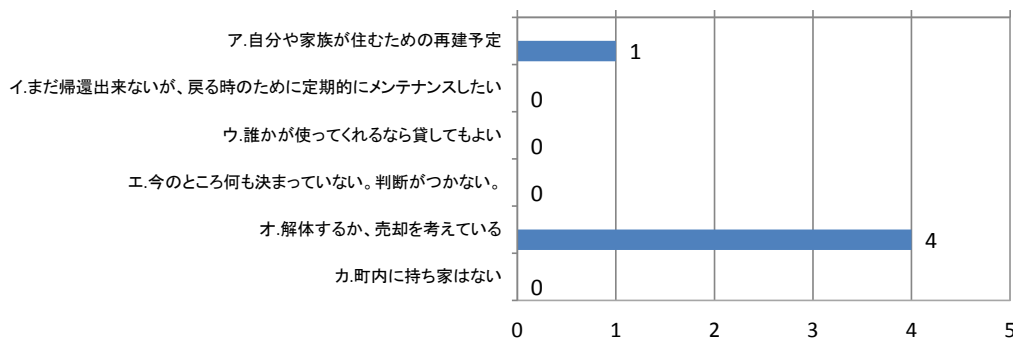
②今後の生活の拠点について

	回答数	構成比
ア. 大熊町に戻る予定	2	40.0%
イ. 条件が整えば戻りたい	1	20.0%
ウ. 判断がつかない	1	20.0%
エ. 戻るつもりはない	1	20.0%
合計	5	100.0%



③大熊町内のご自宅について（複数回答可）

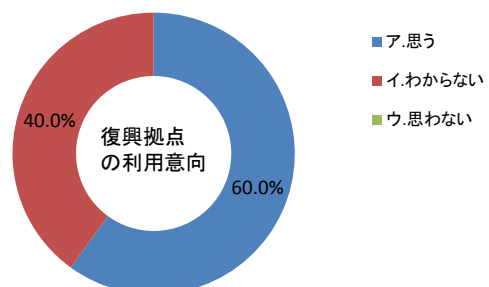
	回答数
ア. 自分や家族が住むための再建予定	1
イ. まだ帰還出来ないが、戻る時のために定期的にメンテナンスしたい	0
ウ. 誰かが使ってくれるなら貸してもよい	0
エ. 今のところ何も決まっていない。判断がつかない	0
オ. 解体するか、売却を考えている	4
カ. 町内に持ち家はない	0
合計	5



【復興拠点について】

④復興拠点ができたら、あなたは利用する／したいと思いますか。

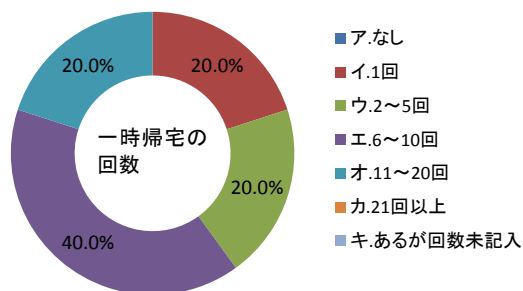
	回答数	構成比
ア. 思う	3	60.0%
イ. わからない	2	40.0%
ウ. 思わない	0	0.0%
合計	5	100.0%



【大熊町とのつながりについて】

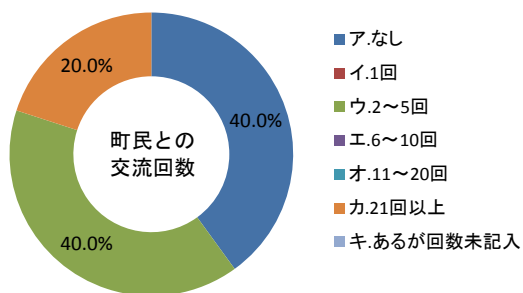
⑤昨年（平成 29 年）中、一時帰宅で大熊町内に何回程度立ち入りましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1 回	1	20.0%
ウ. 2～5 回	1	20.0%
エ. 6～10 回	2	40.0%
オ. 11～20 回	1	20.0%
カ. 21 回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	5	100.0%



⑥昨年（平成 29 年）中、大熊町民と何らかの交流の機会がありましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	2	40.0%
イ. 1 回	0	0.0%
ウ. 2～5 回	2	40.0%
エ. 6～10 回	0	0.0%
オ. 11～20 回	0	0.0%
カ. 21 回以上	1	20.0%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	5	100.0%



【その他意見】

- ・（大熊町のことを懐かしく思う時は、）梨、梨畑、展望台からの初日の出、熊川海水浴場、坂下ダム、中央台遊歩道、幼稚園、駅、家。
- ・（復興拠点にあったらよいお店、サービスは、）見守りサービス、美容室、霊園、食料品や日用品のお店、内科歯科、整形外科。
- ・（町民との交流の機会は、）料理教室、健康教室、社協サロン、梨実サロン、町民との集い（餅つき、豚汁会等）

日時：平成30年2月3日（土曜）13:00～14:30

対応者：大熊町企画調整課 石田係長

記録員：UR都市機構震災復興支援室 後藤課長

班名：B班

出席者数：7名

■ヒアリングでの主な意見

【帰町予定】

- ・避難指示が解除されたら、すぐに帰るつもり。
- ・大熊の方が職場に近いので、できるだけ早く戻りたい。
- ・自宅を建て替え済み。すぐに帰宅したい。
- ・熊町は除染するの？自宅はまだ新しいので、イノシシの被害はないので、解除になれば戻るつもり。
- ・除染の予定がないので、帰るつもりはない。

【現在の大熊町とのつながり】

- ・仕事上の接点で大熊の人に会うことはあるが、プライベートでのつながりは、特にない。仕事が忙しく、時間をつくれな。
- ・町や行政区でイベントやツアーを企画してくれているが、忙しくて参加できない。将来、仕事をリタイアしたら、たくさん参加するかも。
- ・集落の会合や、漁業組合の総会（組合長なので）などの行事には参加している。
- ・町主催のタブレットの講習会があって、これは参加しようと思っていたが、どうしても平日は時間がとれなかった。
- ・年代によって、つながり方は大きく違うと思う。
- ・大熊町で成人式を迎えた世代は、町民としての一体感があると思う。それ以降の世代は、成人式がバラバラで一体感がなく、仕事も町外で就いていく。そのために、どうしても町とのつながりが薄い。それは仕方がない。しかし、その世代のそのまた子供の世代は、大熊町に戻って、大熊で育ってほしい。それくらい長い目で考えたい。

【大熊を訪れる「きっかけ」とは】

- ・現在、自家用車で通勤は会社に禁止されている。会社の送迎バスで通勤しているため、途中でどこかに立ち寄ることはできない。交流施設にどんな店ができて、使うことは難しい。大型バスでなく、少人数の乗り合い通勤の企業もあり、その場合は立ち寄れるだろう。
- ・サンライトおおくまを復活してほしい。自分らの年齢になると、安心して老後に入れる入所施設があることが大事。昔からの地元の仲間と一緒に入所したい。
- ・「女性と子供」が楽しめる施設にすべき。広場はぜひ天然芝にして、子供が裸足で遊べるようにしてほしい。女性と子供が安心して戻れるようにしなければ。
- ・一時帰宅の際も、子供は連れてはこない。子供も行きたいと言わない。

【宿泊施設・温浴施設】

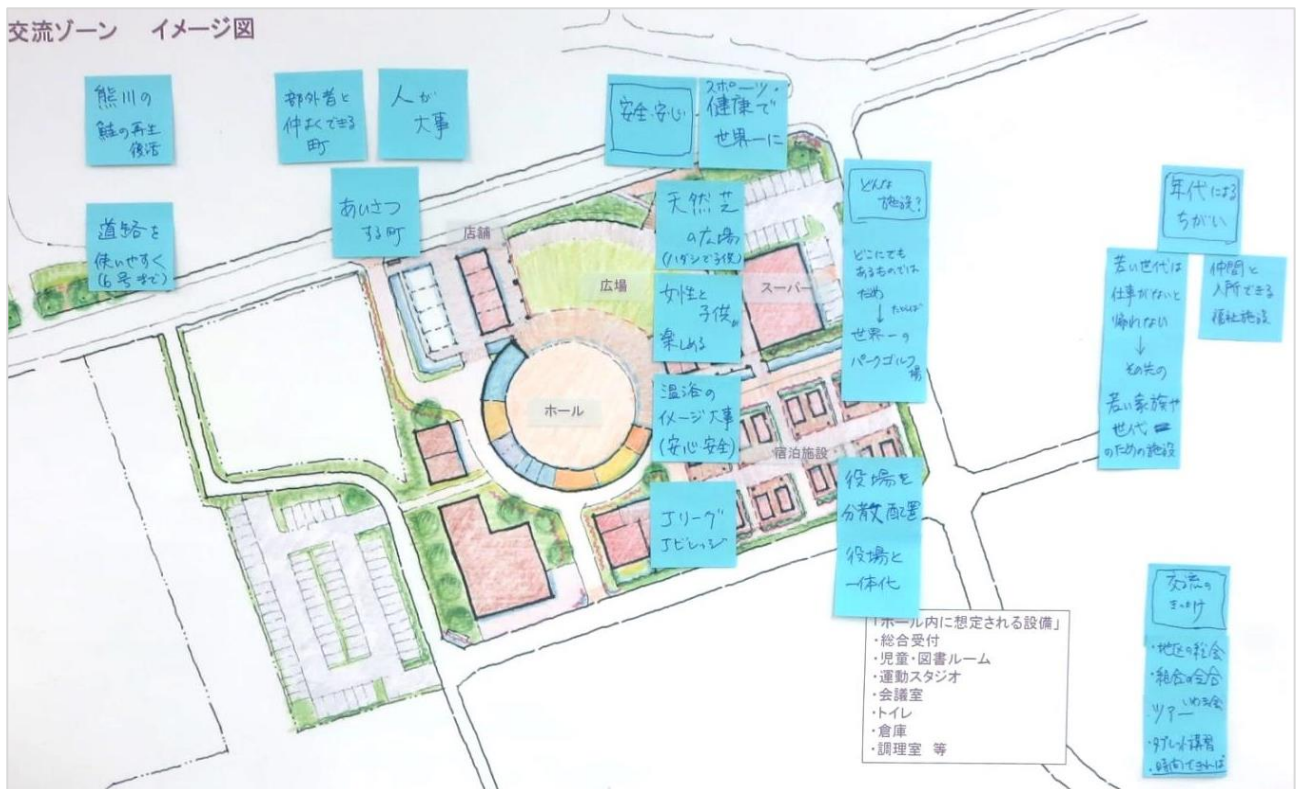
- ・温浴施設は、イメージが大事。震災直後、いわきの健康センターが一時閉鎖に追い込まれた。理由は、除染作業員が入浴して放射線量が高くなるのではとの風評被害。大川原も同様の風評被害に気を付けないと。周辺の除染が完了した後にオープンさせるなど。
- ・そういった風評被害を払拭することが大事。そういう町を目指したい。
- ・健康・スポーツを町のテーマにしたらどうか。Jビレッジが再開するし、Jリーグの基準を満たすスタジアムをつくれれば、いま施設に困っているチームを引っ張れるかも。

【交流ゾーンに望むもの】

- ・ イメージアップの必要がある。浪江では水素工場をつくるというが、(対抗して) 大熊ではパークゴルフの世界一のコースをつくるとか、Jリーグの誘致とか。
- ・ 風評に対抗して、外の人にたくさん来てもらうようにしたい。誰とでもなかよく。まずは誰とでも挨拶をすること。そして、一緒に酒を飲むこと。
- ・ 大川原にいい施設ができるなら、道路の整備も大事。6国にまっすぐ出られるように。
- ・ 福祉施設は、介護士の数が足りなくて難しいというが、それなら役場と交流・福祉施設を一体化してはどうか。若い職員に声がけされれば、お年寄りも元気が出ると思う。一体建物が難しいなら、役場の部署を交流・福祉ゾーンに散らばせて配置するとか。

【その他】

- ・ 熊川の南側の除染を進めてほしい。漁業組合長を20年やっているが、鮭漁の再開が願い。



■付箋内容

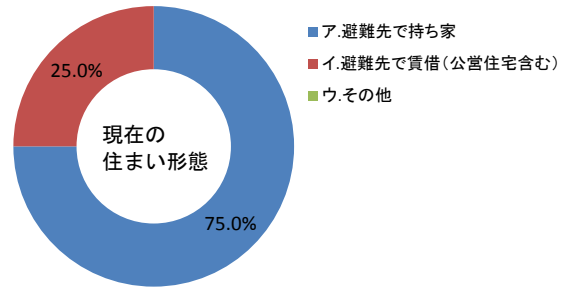
- ・ 若い世代は仕事がないと帰れない
→その先の若い家族や世代のための施設
- ・ 交流のきっかけ
→地区の総会、組合の会合、いわき会、ツアー・タブレット講習、時間出来れば
- ・ どんな施設? どこにでもあるものではだめ→例えば世界一のパークゴルフ場
- ・ 役場を分散配置
- ・ 役場と一体化
- ・ 部外者と仲良くできる町
- ・ 安全、安心
- ・ スポーツ、健康で世界一に
- ・ 天然芝の広場(ハダシで子供)
- ・ 女性と子供が楽しめる
- ・ 温浴のイメージ大事(安心・安全)
- ・ Jリーグ、Jビレッジ
- ・ 仲間と入所できる福祉施設
- ・ 年代による違い

- ・ あいさつする町
- ・ 人が大事
- ・ 熊川の鮭の再生、復活
- ・ 道路を使いやすく(6号まで)

■事前アンケート集計結果について (B班) 回収4名
【生活拠点について】

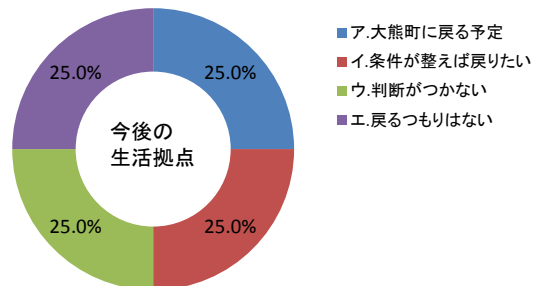
①現在のお住まいの形態について

	回答数	構成比
ア. 避難先で持ち家	3	75.0%
イ. 避難先で賃借(公営住宅含む)	1	25.0%
ウ. その他	0	0.0%
合計	4	100.0%



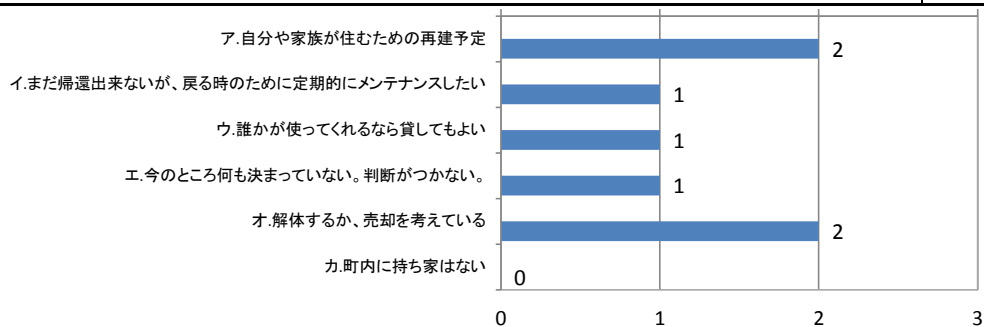
②今後の生活の拠点について

	回答数	構成比
ア. 大熊町に戻る予定	1	25.0%
イ. 条件が整えば戻りたい	1	25.0%
ウ. 判断がつかない	1	25.0%
エ. 戻るつもりはない	1	25.0%
合計	4	100.0%



③大熊町内のご自宅について (複数回答可)

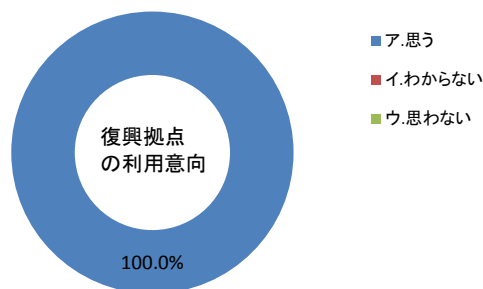
	回答数
ア. 自分や家族が住むための再建予定	2
イ. まだ帰還出来ないが、戻る時のために定期的にメンテナンスしたい	1
ウ. 誰かが使ってくれるなら貸してもよい	1
エ. 今のところ何も決まっていない。判断がつかない	1
オ. 解体するか、売却を考えている	2
カ. 町内に持ち家はなし	0
合計	7



【復興拠点について】

④復興拠点ができたら、あなたは利用する／したいと思いますか。

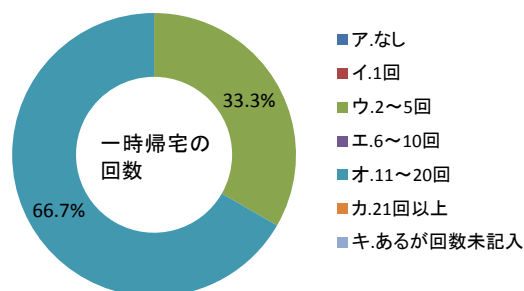
	回答数	構成比
ア. 思う	3	100.0%
イ. わからない	0	0.0%
ウ. 思わない	0	0.0%
合計	3	100.0%



【大熊町とのつながりについて】

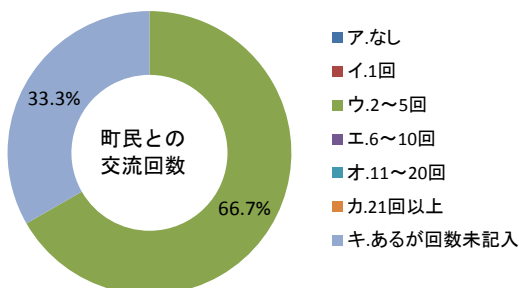
⑤昨年（平成 29 年）中、一時帰宅で大熊町内に何回程度立ち入りましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1 回	0	0.0%
ウ. 2～5 回	1	33.3%
エ. 6～10 回	0	0.0%
オ. 11～20 回	2	66.7%
カ. 21 回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	3	100.0%



⑥昨年（平成 29 年）中、大熊町民と何らかの交流の機会がありましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1 回	0	0.0%
ウ. 2～5 回	2	66.7%
エ. 6～10 回	0	0.0%
オ. 11～20 回	0	0.0%
カ. 21 回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	1	33.3%
合計	3	100.0%



【その他意見】

- ・ 特になし

日 時：平成 30 年 2 月 3 日（土曜）13:00～14:30
対応者：大熊町産業建設課 東主任主査
記録員：UR都市機構復興拠点事業推進課 土田主査
班 名：C班
出席者数：9名

■ヒアリングでの主な意見

【交流ゾーンに求めるもの】

- ・ 共同で作業を行う家庭菜園や体を動かす運動をするような場所があるとよい。
- ・ 身体を動かして汗をかいた後は温泉でさっぱりしたい。
- ・ 温泉の利用料は、300 円程度がよいが 500 円でも仕方ない。700 円は高いと思う。
- ・ おしゃべりができるおしゃれな喫茶店・カフェや、寄り合いをしたときにお酒を飲める店がほしい。皆で集まって話をしても意見がまとまらないことがままあるが、一緒にお酒を飲むと話がまとまる。
- ・ スーパーがほしい。
- ・ 屋根付のホールに加えて屋根をかけて雨の日でもイベントが中止にならない様な仕掛けができるとよいかなど思っている。
- ・ ふらっと立ち寄って使えるように、ターゲットは高齢者に加え若者も集まれるような場所になるとよい。
- ・ 事前に予約しないと使えない、ということではなく、ちょっと時間が出来た時に気軽に利用できるようにする。利用のハードルは高くしないでほしい。
- ・ 車が止められないのは辛いので、車が止められるように駐車場の設置対応もお願いしたい。

【交流ゾーンでの活動】

- ・ 敬老会や成人式といったイベントを単発で開催するだけでなく、イベントが終わった後に楽しめるような店や、成人式が終わった後に皆で町内を回るといったイベント後のイベントがあるとより充実感がある。
- ・ 宿泊施設は、お盆の時期に利用が多いと思う。
- ・ 東電単身寮は食事付きの為、買い物の量はそれほど多くない。

【産業の復興】

- ・ 漁業を復活させるということで、稚魚を孵化させるようなものもあるとよい。
- ・ 日常で何もすることが無いのは辛いので、釣り堀等があるとよい。坂下ダムにはヘラブナという魚がいるが、資源として何かできないか。

【その他】

- ・ 現在は高速道路や駅周辺にガソリンスタンドが無い状況。ガソリンスタンドを設置してそれをきっかけにお店まで買物に来てもらえるのでは。
- ・ 壮大な話になるが、大野駅までのモノレールを整備できたらよい。



■付箋内容

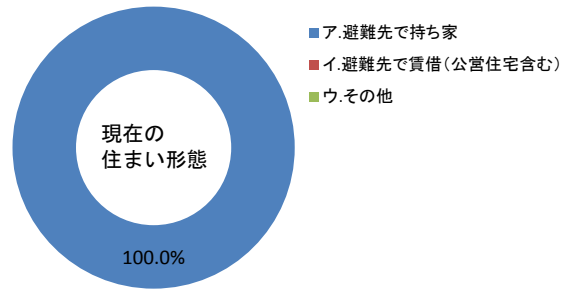
- ・ 宿泊施設、お盆の時期は大人数で泊まる
- ・ 家庭菜園、みんな共同で作業
- ・ スーパーつくってよ！
- ・ 寄り合って一杯やれる場所、店
- ・ 帰る帰らないは別にして、使いやすい施設
- ・ ちょっと時間があるときに、気楽に使える、集える場所
- ・ 屋根付で天候に左右されない場所、広場
- ・ 運動、体を動かす+温泉
- ・ おしゃれなカフェ、おしゃべりできる
- ・ 釣り堀、何かをする場所、ヘラブナ
- ・ お酒飲んで意見集約！
- ・ 温泉 700円は高いかな
- ・ 独身寮は食事付き、買い物の量多くない
- ・ 年寄りにやさしく若者が集まって来るまち
- ・ 「あそこに行けば誰かいる」
- ・ イベント後に楽しめる店、イベント
- ・ 漁業の復活、放流、ふ化施設
- ・ 駐車場しっかり確保を
- ・ ガソリンスタンド！
- ・ 大野駅、大川原、復興公園 ex、モノレール

■事前アンケート集計結果について（C班）回収6名

【生活拠点について】

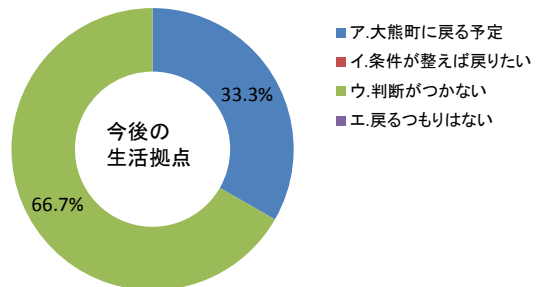
①現在のお住まいの形態について

	回答数	構成比
ア. 避難先で持ち家	6	100.0%
イ. 避難先で賃借（公営住宅含む）	0	0.0%
ウ. その他	0	0.0%
合計	6	100.0%



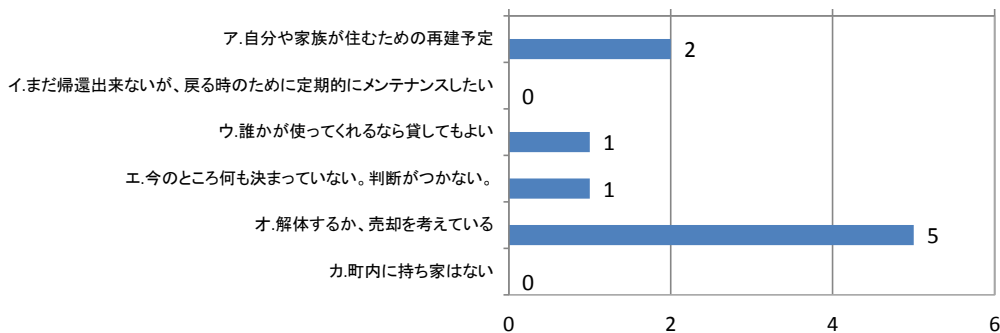
②今後の生活の拠点について

	回答数	構成比
ア. 大熊町に戻る予定	2	33.3%
イ. 条件が整えば戻りたい	0	0.0%
ウ. 判断がつかない	4	66.7%
エ. 戻るつもりはない	0	0.0%
合計	6	100.0%



③大熊町内のご自宅について（複数回答可）

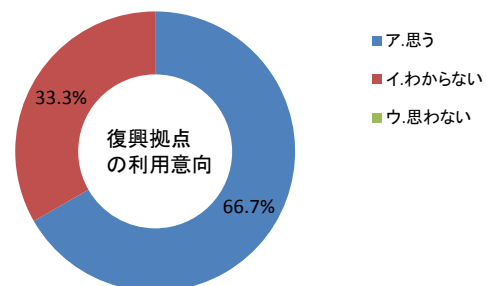
	回答数
ア. 自分や家族が住むための再建予定	2
イ. まだ帰還出来ないが、戻る時のために定期的にメンテナンスしたい	0
ウ. 誰かが使ってくれるなら貸してもよい	1
エ. 今のところ何も決まっていない。判断がつかない	1
オ. 解体するか、売却を考えている	5
カ. 町内に持ち家はない	0
合計	9



【復興拠点について】

④復興拠点ができたら、あなたは利用する／したいと思いますか。

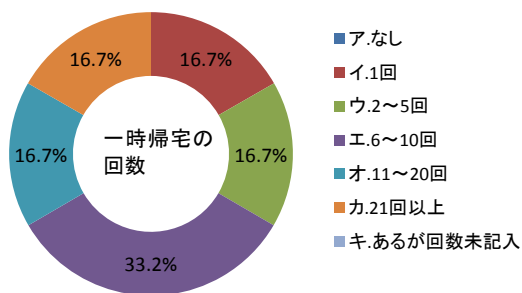
	回答数	構成比
ア. 思う	4	66.7%
イ. わからない	2	33.3%
ウ. 思わない	0	0.0%
合計	6	100.0%



【大熊町とのつながりについて】

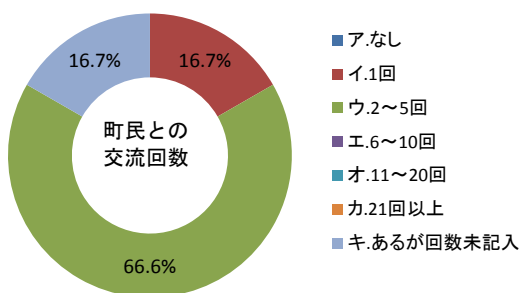
⑤昨年（平成 29 年）中、一時帰宅で大熊町内に何回程度立ち入りましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1 回	1	16.7%
ウ. 2～5 回	1	16.7%
エ. 6～10 回	2	33.2%
オ. 11～20 回	1	16.7%
カ. 21 回以上	1	16.7%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	6	100.0%



⑥昨年（平成 29 年）中、大熊町民と何らかの交流の機会がありましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1 回	1	16.7%
ウ. 2～5 回	4	66.6%
エ. 6～10 回	0	0.0%
オ. 11～20 回	0	0.0%
カ. 21 回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	1	16.7%
合計	6	100.0%



【その他意見】

- ・ 特になし

日時：平成30年2月3日（土曜）13:00～14:30

対応者：大熊町企画調整課 喜浦主事

記録員：URリンクエージ計画部 立原

班名：D班

出席者数：7名

■ヒアリングでの主な意見

【一時帰宅の状況について】

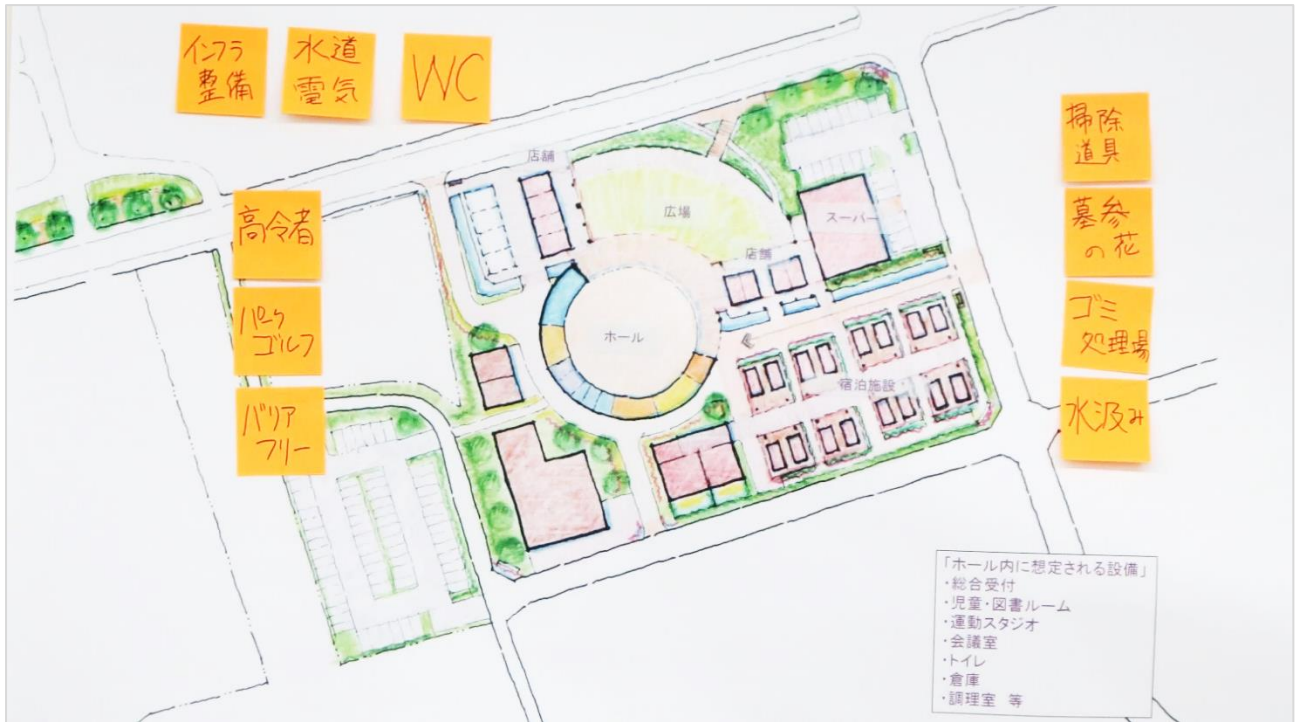
- ・ 自宅は大川原ではないが、もうじき避難解除される所なので比較的帰宅が自由。
- ・ 自宅は線量が高くもう帰還できないと思うが、他の土地でもよいので、いずれは町に戻りたい。
- ・ お墓参りに年2回くらい来るが、5時間以内に制限されているので、自宅の管理まではできない。もう少し長くいたい。

【町全体についての要望】

- ・ 一時帰宅で、家の管理などに来ているが、まだ水道も電気も全くきていないのでトイレすら使えないので、大川原というよりは、避難区域の要所にトイレ等の施設を作った方がよい。
- ・ 一時帰宅で戻った時に、一番切実なのは水が出ないということで、家から大量に積んでくるか、遠くまで汲みに行かなければならず、要所に水が出る場所を作ってほしい。
- ・ 最低のインフラを整備してほしい。
- ・ やはり、大川原よりは元の家に戻りたいが、町全体の準備区域と制限区域が入り混じっており、自宅は制限区域だ。その線引きが現実的でないように思う。除染が終わった箇所については、早く出入りができるようにしてほしい。
- ・ 病院については大川原よりも駅前がよい。

【大川原に必要なまたはあったら嬉しい施設・機能について】

- ・ 家の掃除でゴミが出るので、ゴミを捨てる場所を作れば立ち寄って帰る。
- ・ 家の管理をするために来町するので、掃除用具や庭の手入れ道具を貸してくれるところがあると便利だ。
- ・ 年に数回お墓参りに来るときは、遠くから花を持ってくるので、墓参りのための花やお線香を売っているとよい。
- ・ パークゴルフができる場所がほしい。大会は100人程度集まってその後食事をしたりもする。
- ・ 高齢者の人が多入ってくるので、何を作るにしてもバリアフリーにより、高齢者が楽しめる施設にする必要がある。
- ・ 大川原にお金をかけて施設を作るのは無駄だと思うが、できてしまえば使うと思う。



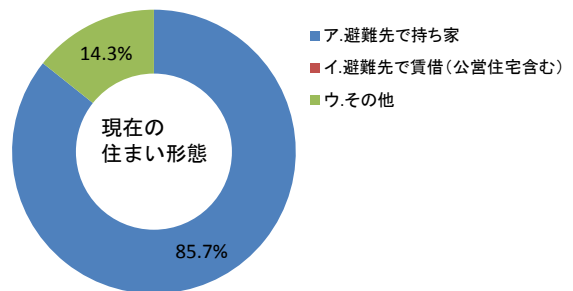
■付箋内容

- ・ 水汲み場所
- ・ ゴミ捨て・処理場
- ・ 掃除道具
- ・ 墓参の花
- ・ 水道・電気
- ・ WC
- ・ 高齢者→パークゴルフ
→「バリアフリー」
- ・ インフラ整備

■事前アンケート集計結果について (D班) 回収7名
【生活拠点について】

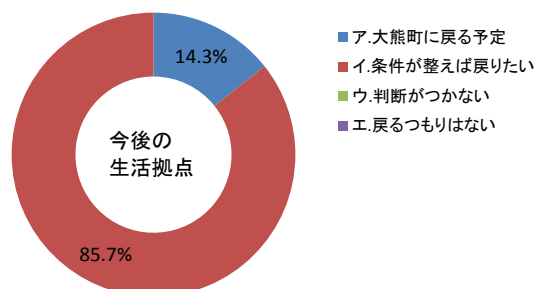
①現在のお住まいの形態について

	回答数	構成比
ア. 避難先で持ち家	6	85.7%
イ. 避難先で賃借 (公営住宅含む)	0	0.0%
ウ. その他	1	14.3%
合計	7	100.0%



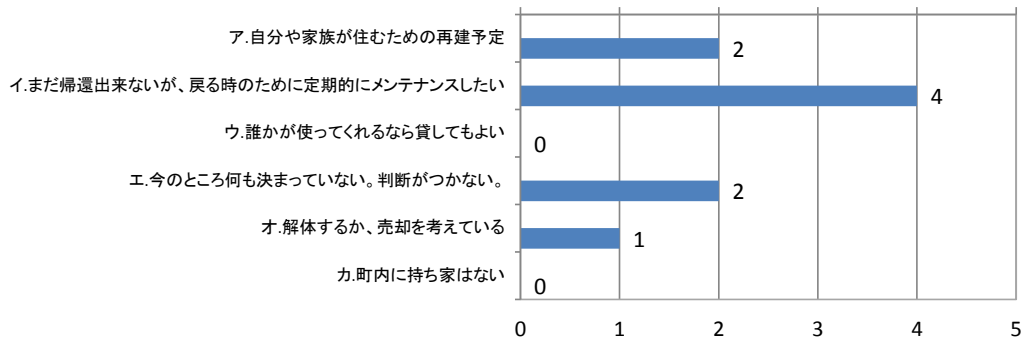
②今後の生活の拠点について

	回答数	構成比
ア. 大熊町に戻る予定	1	14.3%
イ. 条件が整えば戻りたい	6	85.7%
ウ. 判断がつかない	0	0.0%
エ. 戻るつもりはない	0	0.0%
合計	7	100.0%



③大熊町内のご自宅について（複数回答可）

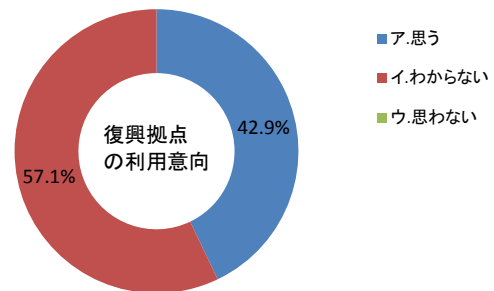
	回答数
ア. 自分や家族が住むための再建予定	2
イ. まだ帰還出来ないが、戻る時のために定期的にメンテナンスしたい	4
ウ. 誰かが使ってくれるなら貸してもよい	0
エ. 今のところ何も決まっていない。判断がつかない	2
オ. 解体するか、売却を考えている	1
カ. 町内に持ち家はない	0
合計	9



【復興拠点について】

④復興拠点ができたら、あなたは利用する／したいと思いますか。

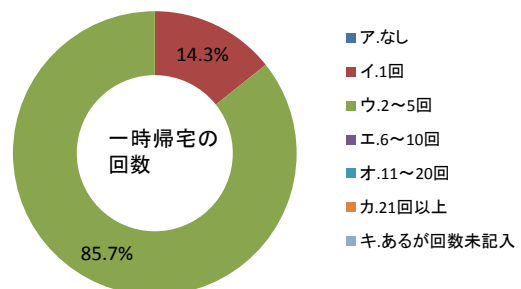
	回答数	構成比
ア. 思う	3	42.9%
イ. わからない	4	57.1%
ウ. 思わない	0	0.0%
合計	7	100.0%



【大熊町とのつながりについて】

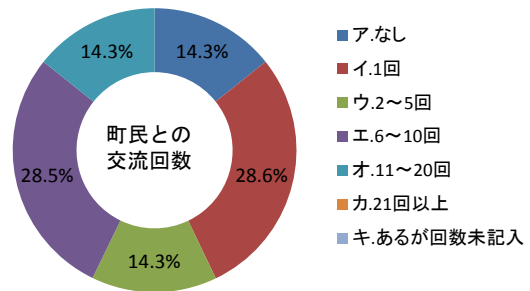
⑤昨年（平成29年）中、一時帰宅で大熊町内に何回程度立ち入りましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1回	1	14.3%
ウ. 2～5回	6	85.7%
エ. 6～10回	0	0.0%
オ. 11～20回	0	0.0%
カ. 21回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	7	100.0%



⑥昨年（平成 29 年）中、大熊町民と何らかの交流の機会がありましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	1	14.3%
イ. 1 回	2	28.6%
ウ. 2～5 回	1	14.3%
エ. 6～10 回	2	28.5%
オ. 11～20 回	1	14.3%
カ. 21 回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	7	100.0%



【その他意見】

- ・（大熊町内の自宅は、）除染の対象にもならない地域にあり、国か町に買い取ってもらいたい。
- ・（震災前の大熊町で人と会ったりしゃべったりしていた場所は、）ふれあいパークゴルフ場。
- ・（現在の生活での交流の場所や機会は、）十分ではないが、広野の RG 場に行き（週 2 回程度）大熊町民の約 30 名と交流している。
- ・大熊町にパークゴルフ場外スポーツ施設があれば必然的に帰還する町民が増えると思う。身心の活性化となり高齢者は介護を必要としない。
- ・（復興拠点にあったらよいお店やサービスは、）日常生活に欠かせない商品の店。
- ・（町民との交流の機会は、）老人クラブ（中央台会長）や区長に係る集会等。

日 時：平成 30 年 2 月 4 日（日曜）10:00～11:30
対応者：大熊町企画調整課 高田課長補佐
記録員：UR都市機構復興拠点事業推進課 亀若課長
班 名：A班
出席者数：5名

■ヒアリングでの主な意見

【町全体について】

- ・ 除染や廃炉作業はある程度期限があるので、作業が終了したらまた人がいなくなる。それを無くすためには若い人や新しい人にいかに来てもらえるのかを考えなければならない。それは町の税収入にも係る。

【大熊町との繋がり・交流】

- ・ 昨年1年間でどれだけ町との交流があったかについて幅があり、全くない方もいれば、6～7回程度、多い方では20回、40回交流がある人もいた。
- ・ 当時住んでいた時の隣近所の人との繋がりが一番町との繋がりが感じられる。具体的には、町民体育祭やふるさとの風景が故郷を感じられるものとして重要である。
- ・ 名産の梨は人との繋がりを育んでいく上では重要である。

【交流施設に必要な施設・機能】

- ・ イベントを行うと人が集まりやすいが、現在避難している方は遠くにいるので、いわき市や郡山市等他都市でイベント開催できるとよい。
- ・ ふるさと祭りを大川原で行うと人が集まりやすい。
- ・ 医療福祉に世話にならない段階の時に、そこに集まって将棋や麻雀等の趣味を行う。或いは喫茶店等に集まれる場所があるとよい
- ・ 料理を持ち寄り、皆で集まってホールで食事が行えるとよい。
- ・ 現在「〇〇友の会」という会合がいくつかあるので、交流ホールを活用して会合を企画できるとよい。
- ・ 医療福祉については、高齢者を緊急に受け入れてくれる施設があるとよい。また、要介護になった時に故郷を見ながら施設に入れるとよい。

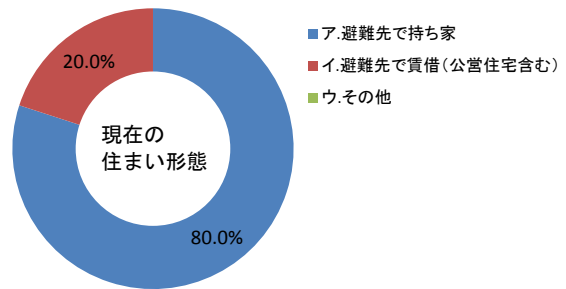
【その他】

- ・ 温浴施設の計画が進められているが、温水プールや運動するための水中歩行ができるとよい。温水プールについては、熱源が必要になってくるが、ゴミ処理施設でゴミを燃やした時に出る余剰熱を利用して温水に利用することも考えられる。

■事前アンケート集計結果について（A班）回収5名
【生活拠点について】

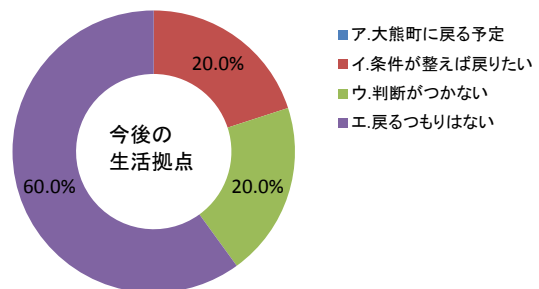
①現在のお住まいの形態について

	回答数	構成比
ア. 避難先で持ち家	4	80.0%
イ. 避難先で賃借（公営住宅含む）	1	20.0%
ウ. その他	0	0.0%
合計	5	100.0%



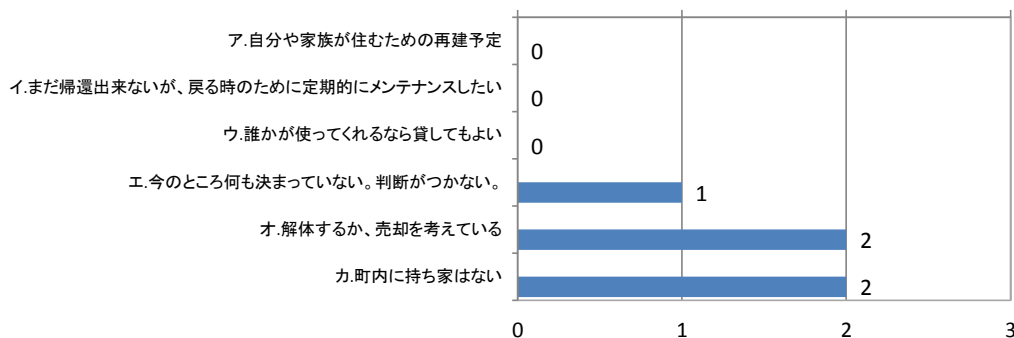
②今後の生活の拠点について

	回答数	構成比
ア. 大熊町に戻る予定	0	0.0%
イ. 条件が整えば戻りたい	1	20.0%
ウ. 判断がつかない	1	20.0%
エ. 戻るつもりはない	3	60.0%
合計	5	100.0%



③大熊町内のご自宅について（複数回答可）

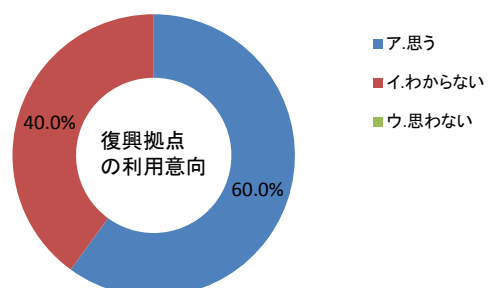
	回答数
ア. 自分や家族が住むための再建予定	0
イ. まだ帰還出来ないが、戻る時のために定期的にメンテナンスしたい	0
ウ. 誰かが使ってくれるなら貸してもよい	0
エ. 今のところ何も決まっていない。判断がつかない	1
オ. 解体するか、売却を考えている	2
カ. 町内に持ち家はない	2
合計	5



【復興拠点について】

④復興拠点ができたら、あなたは利用する／したいと思いますか。

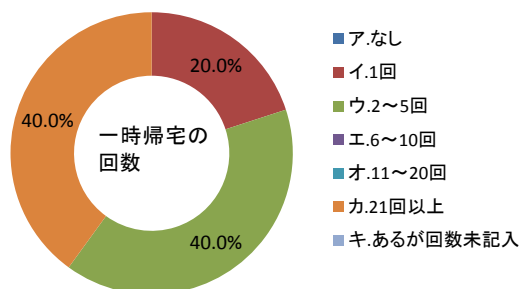
	回答数	構成比
ア. 思う	3	60.0%
イ. わからない	2	40.0%
ウ. 思わない	0	0.0%
合計	5	100.0%



【大熊町とのつながりについて】

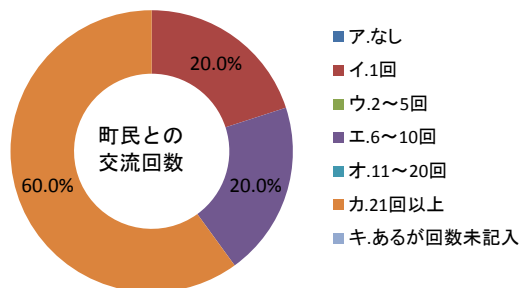
⑤昨年（平成 29 年）中、一時帰宅で大熊町内に何回程度立ち入りましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1 回	1	20.0%
ウ. 2～5 回	2	40.0%
エ. 6～10 回	0	0.0%
オ. 11～20 回	0	0.0%
カ. 21 回以上	2	40.0%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	5	100.0%



⑥昨年（平成 29 年）中、大熊町民と何らかの交流の機会がありましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1 回	1	20.0%
ウ. 2～5 回	0	0.0%
エ. 6～10 回	1	20.0%
オ. 11～20 回	0	0.0%
カ. 21 回以上	3	60.0%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	5	100.0%



【その他意見】

- ・（現在の生活の中で、交流の場所や機会については、）これからは少なるかな。
- ・（「つながり」を保っていくために必要な機会やサービスについて、）サロン又は行政区等の集まり、イベントなど。
- ・（町内の自宅については、）中間貯蔵施設になっている。

日 時：平成 30 年 2 月 4 日（日曜）10:00～11:30

対応者：大熊町産業建設課 遠藤主査

記録員：UR都市機構事業企画総括課 秋山主幹

班 名：B班

出席者数：6名

■ヒアリングでの主な意見

【大熊町に必要な施設・機能】

- ・ 皆違うところに住んでいて、この場所を使うことを考えると、総会やイベントのようなもの企画しなければ難しい。そうなった時にパークゴルフを行う人が多いので現在でも1週間に1回、2週間に1回程度、多い時には30～50人規模で集まって行くこともある。人が集まると、その後食事や宿泊の需要に繋がる。
- ・ 皆集まって体を動かす機会があった方が良く、広野町のゴルフ場が使われている。
- ・ 大熊町では高齢者の割合が高いが、今後は子供たちの意見も聞く必要がある。若い人や新たな転入者も必要。大熊町は十数年人口増が続いたが、手厚い優遇制度や安い公共サービスがあったということで子育て世代が入ってきたこともあったので、そのような事も伝えていく必要がある。また、放射性廃棄物の安全性をきちんと確保する必要がある。

【大熊町との繋がり・交流】

- ・ 町全体になるが老人ホームも現在700人待ちのため、いつまでも入れないという状況がある。量的にも必要であるし、現在違う地域で生活している方も最後は大熊町に戻って過ごしたいという人も多い。
- ・ 店舗の配置については、図書館は移動図書館で既存の図書館との本のやり取りができればよい。具体的な手法として調理室でキッチンスタジオのような仕様になっていると使い勝手がよい。
- ・ 駐車場が少ないので、周辺にサブ的な駐車場があった方がよい、駐車場とセットでトイレが色々な所にあって、店についても分かりやすい場所にトイレがあるとお年寄りからすると非常に大事であるということで設計に反映した方がよい。
- ・ 帰還については、年に3回や7回、去年は除染の関係で20回一時帰宅した方もいる。
- ・ 思い出に残る風景については、海や日隠山、除染区域になっているが海岸沿いの松に焦点をあててもよい。
- ・ 大川原は戊辰戦争の際に難を免れた歴史がある。今回も風向き関係で放射線の線量が低く、歴史は繰り返すではないが、施設の立地場所はそのような場所であることを教えて頂いた。



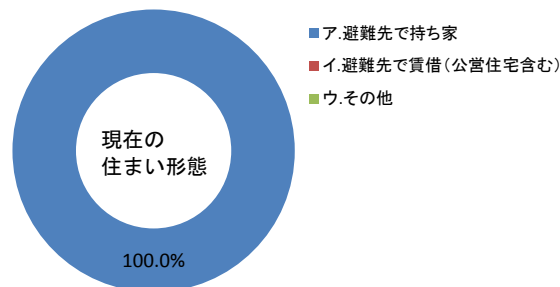
■付箋内容

- ・ ゴミ処理施設の熱を利用→温水
- ・ 集客の機会を作る必要があるのでは？（総会なら 100 人／年 1 回）
- ・ パークゴルフあった方がよい、週 1 回 or 2 週に 1 回 30-50 人
- ・ 集まる機会、体が動かせる機会があった方がよい。（広野も集まっている）
- ・ 大野駅からの交通の足が必要
- ・ 放射線や廃棄物からの安全性の確保（長期的に）
- ・ 子供たちの意見も聞く必要がある
- ・ 以前から人の増だったのは手厚い優遇制度、安い公共サービス
- ・ 若い人、転入者が入ってくる方法が必要
- ・ 後期には大熊で過ごしたい人も多いのでは
- ・ 老人ホーム、量が必要
- ・ PLANT 4
- ・ 店舗自分で造りたい人もいる（長屋は狭い）
- ・ パーキングが少ないのでは？サブパーキング近くに（バス対応）
- ・ トイレや茶屋が各所にあった方がよい パーキングとセット、入り口すぐ
- ・ 図書館は？（→移動の図書、図書館との蔵書、やりとりシステム）
- ・ 常磐ガス、キッチンスタジオみたいなもの
- ・ いわきの元気の出る会、敬老会
- ・ 年 3 回ぐらい 7 回、20 回（除染の関係）、大熊町内へ
- ・ 海、水森山、日隠山、海岸沿いの松（樹齢 300 年）中間貯蔵エリア
- ・ 大川原は相馬藩の拠点（戊申戦争）3 人の侍のおかげで大川原は免れた。今回も風向きで助かった。
- ・ 大野駅も石田さんの先祖が私財を投げうって駅を作った。歴史は繰り返している

■事前アンケート集計結果について（B班）回収5名
【生活拠点について】

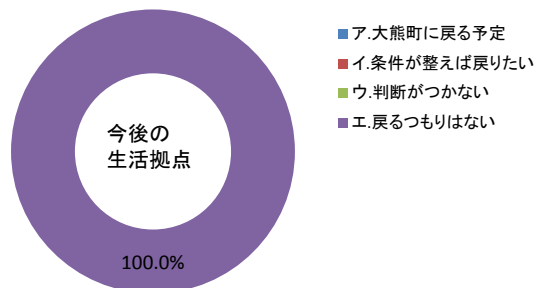
①現在のお住まいの形態について

	回答数	構成比
ア. 避難先で持ち家	5	100.0%
イ. 避難先で賃借（公営住宅含む）	0	0.0%
ウ. その他	0	0.0%
合計	5	100.0%



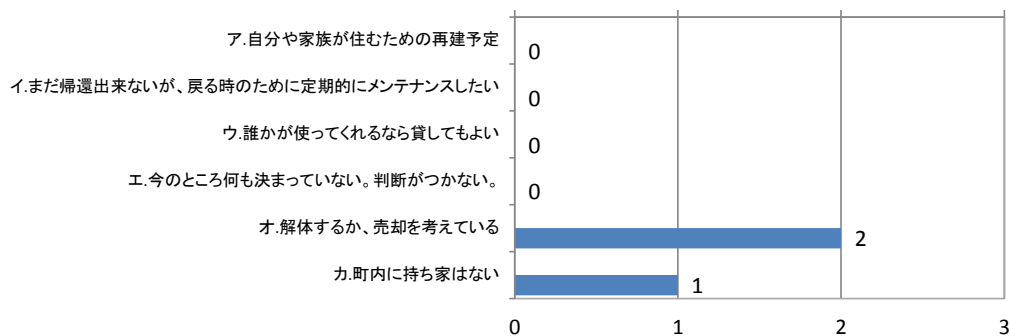
②今後の生活の拠点について

	回答数	構成比
ア. 大熊町に戻る予定	0	0.0%
イ. 条件が整えば戻りたい	0	0.0%
ウ. 判断がつかない	0	0.0%
エ. 戻るつもりはない	5	100.0%
合計	5	100.0%



③大熊町内のご自宅について（複数回答可）

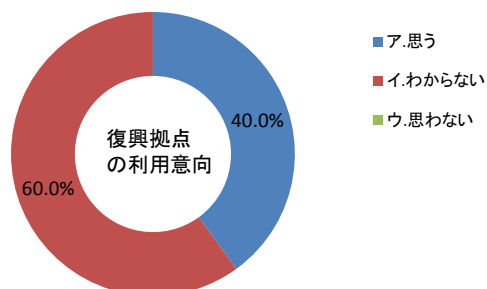
	回答数
ア. 自分や家族が住むための再建予定	0
イ. まだ帰還出来ないが、戻る時のために定期的にメンテナンスしたい	0
ウ. 誰かが使ってくれるなら貸してもよい	0
エ. 今のところ何も決まっていない。判断がつかない	0
オ. 解体するか、売却を考えている	2
カ. 町内に持ち家はない	1
合計	3



【復興拠点について】

④復興拠点ができたら、あなたは利用する／したいと思いますか。

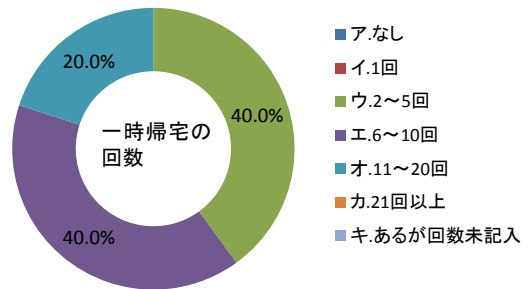
	回答数	構成比
ア. 思う	2	40.0%
イ. わからない	3	60.0%
ウ. 思わない	0	0.0%
合計	5	100.0%



【大熊町とのつながりについて】

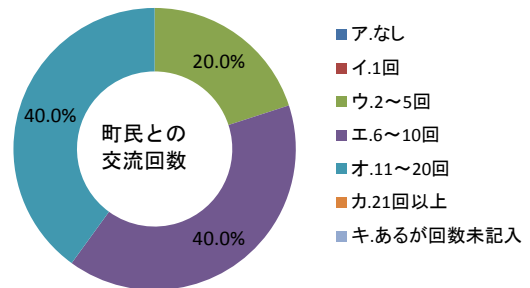
⑤昨年（平成 29 年）中、一時帰宅で大熊町内に何回程度立ち入りましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1 回	0	0.0%
ウ. 2～5 回	2	40.0%
エ. 6～10 回	2	40.0%
オ. 11～20 回	1	20.0%
カ. 21 回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	5	100.0%



⑥昨年（平成 29 年）中、大熊町民と何らかの交流の機会がありましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1 回	0	0.0%
ウ. 2～5 回	1	20.0%
エ. 6～10 回	2	40.0%
オ. 11～20 回	2	40.0%
カ. 21 回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	5	100.0%



【その他意見】

- ・（町内の自宅については、）中間貯蔵予定地で帰還不可。

日 時：平成 30 年 2 月 4 日（日曜）10:00～11:30

対応者：大熊町企画調整課 喜浦主事

記録員：UR都市機構震災復興支援室事業管理課 桃原主幹

班 名：C班

出席者数：7名

■ヒアリングでの主な意見

【町とのつながり。避難先と大熊町の違い】

- ・ 空気が違う。言葉にするのは難しいのだけど、生まれ育ったこの町の空気は、他の町とは違う。
- ・ 大熊町の季節、自然を感じたい。 その空気を吸ってぼーっとしたい。
- ・ そういう気持ちになったときに来られる場所が必要。
- ・ 荒廃してしまった自分の家を見てもがっかりするだけ。
- ・ いわき市内には、病院、介護施設、商業施設が沢山あるのだろうけど、実際行くとなると、どこへ行けばいいのかわからない。大熊町としての施設があるといい。
- ・ 元気で動ける今のうちは避難先で生活をして、歳をとったら・一人になったら、知っている人・町の人がいる大熊町と一緒に暮らしたい。生活する上で必要な条件を整えれば、町に戻る人はいる。

【町に戻るために必要なこと】

- ・ 安定的な日々の生活が大事。そのために必要なものが整っていないと戻れない。
- ・ もともと（震災前に）あった施設は、最低限必要。それよりも、ひとつでも、ふたつでも、良く（施設を増やす）しないと。
- ・ いまなら間に合う。
- ・ （H27 意向調査では「帰還しない」だったが、）年齢（時間の経過）とともに気持ちは変わる。みんな戻りたいと思っている。
- ・ いろいろ整備が遅い。例えば、病院もいま時点で何科が来るかもわからない。

【拠点に必要な施設】

- ・ 宿泊施設：家族が泊まりにくる。避難先でできた友達が来たときに利用したい。大熊町の案内もしたい。
- ・ 墓地：町内に墓地が必要。お墓には年3回は通う。すると、日帰りでは厳しいので、合わせて宿泊施設が必要。
- ・ 医療施設、商業施設、温浴施設
- ・ 交通手段：歳をとるとともに、車の運転ができなくなる。様々施設に行くためには、交通手段が必要。シャトルバスなど。
- ・ 調理室：友達同士で料理教室もできる。駅伝大会があれば、参加者へ炊き出しもしてあげられる。災害時に炊き出しができる。東日本大震災のときには助けてもらった、今度は助けてあげる番。

【拠点での必要な活動】

- ・ みんなで一緒にできることが必要。
- ・ パークゴルフ：今は、会津から広野町のパークゴルフ場まで通っている。100人規模で大会をする時もある。大川原にパークゴルフが出来れば、もちろん来る。
- ・ パークゴルフをした後には、みんなで食事をしたり、お風呂に入ったりする。
- ・ 釣り
- ・ ゲートボール、グラウンドゴルフ
- ・ 食堂、レストラン
- ・ 卓球台、レクリエーション、ニュースポーツ

- ・ 将棋、囲碁、麻雀
- ・ 仮設ではやることがない。コミュニケーションもない。野菜作り、農園があるとよい。

【周辺整備・避難路】

- ・ 戻ってきたはよいが、次の発災時に避難をするための避難路は整備されているのか。震災前から国道 288 号線、114 号線はどうかという話が出ていたが、結局、道路改良はされなかった。
- ・ 福島空港を活用したトライアングル道路という話もあった。
- ・ そのようなものも活用する、もしくは新たな整備・改良により、避難路を確保することが必要。

【その他】

- ・ 町の復興のためにまたお店をやりたい。(震災前と同じ業態でなくても。) 子どもたちも応援してくれている。
- ・ 大熊町の住所で (住民票を移さずに)、いつまで移転先に入れるのか。



■付箋内容

- ・ いわき市内に病院、介護施設、お店があるのだろうけれどもわからない
- ・ 町としての施設があるとよい
- ・ どこに何の施設があるのかわからない。
- ・ 年をとったら、一緒に生活する人がいるところが必要
- ・ 自分の家を見てもがっかりする。
- ・ 生まれ育ったところ空気が違うその空気を吸ってぼーっとしたい

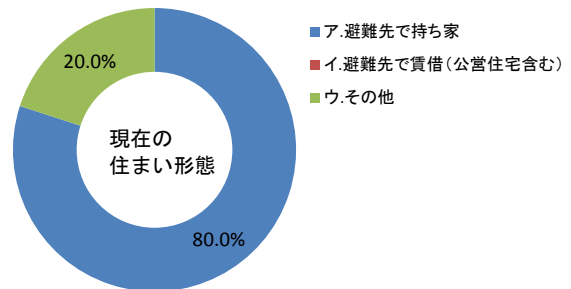
- ・ 町の空気が違う
- ・ 町の季節、自然を感じられる、感じたい
- ・ そういう気持ちになった時に来られる場所が必要
- ・ いまは安心して避難先で生活して、年をとったら・一人になったら、知っている人・町の人と一緒に暮らす。条件を整えれば町に戻る人も増える
- ・ 安定的な日々の生活が大事。日々の生活に必要なものが整っていないと
- ・ もともとあった施設は必要、1個でも2個でもそれより良くしないと
- ・ 年齢的に帰りたいけど帰れない
- ・ 今なら間に合う、年齢とともに気持ちは変わる、みんなもどりたい
- ・ いろいろ遅い、病院も何科が来るのかもわからない
- ・ 家族が泊まりに来る、避難先の友達もくる、大熊の案内もしたい、宿泊施設があれば年3回は通う
- ・ お墓も必要
- ・ 調理室があれば、友達を呼ぶ、駅伝大会や災害時に炊き出しもできる
- ・ 町の復興のために、またお店をやりたい。お店をやれば子ども達も戻りたいと言ってくれている
- ・ 宅地の分譲、自分の戸建てが建てられる宅地が必要。一カ所だけでなく何カ所も
- ・ パークゴルフ、いまは広野に行って100人規模でやっている。
- ・ つり、ゲートボール、グランドゴルフ
- ・ 食堂、レストラン、卓球台、レクレーション、ニューススポーツ、将棋、囲碁、麻雀
- ・ 医療施設、商業施設、宿泊施設、温浴施設
- ・ 歳とともに車の運転ができなくなる。シャトルバスが必要。
- ・ 働く場がないと若い人がもどってこない、学校、保育園、野菜作り、農園をしたい人も
- ・ 仮設ではコミュニケーションがない、やることがない
- ・ 災害時の備品
- ・ 次の発災時の避難路は大丈夫か。国道288号線、114号線は大丈夫か。
- ・ 福島空港-郡山-小野を結ぶ道路トライアングルロード
- ・ 大熊町の住所でいつまで避難先に居られるのか

■事前アンケート集計結果について（0班）回収5名

【生活拠点について】

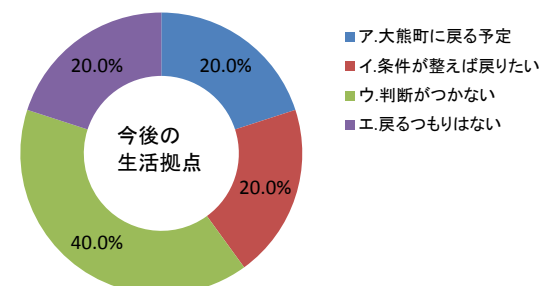
①現在のお住まいの形態について

	回答数	構成比
ア. 避難先で持ち家	4	80.0%
イ. 避難先で賃借（公営住宅含む）	0	0.0%
ウ. その他	1	20.0%
合計	5	100.0%



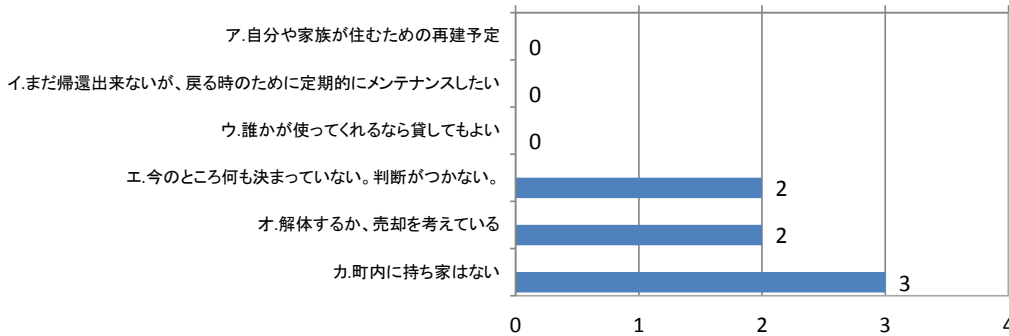
②今後の生活の拠点について

	回答数	構成比
ア. 大熊町に戻る予定	1	20.0%
イ. 条件が整えば戻りたい	1	20.0%
ウ. 判断がつかない	2	40.0%
エ. 戻るつもりはない	1	20.0%
合計	5	100.0%



③大熊町内のご自宅について（複数回答可）

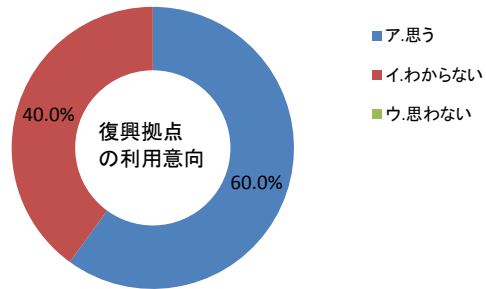
	回答数
ア. 自分や家族が住むための再建予定	0
イ. まだ帰還出来ないが、戻る時のために定期的にメンテナンスしたい	0
ウ. 誰かが使ってくれるなら貸してもよい	0
エ. 今のところ何も決まっていない。判断がつかない	2
オ. 解体するか、売却を考えている	2
カ. 町内に持ち家はない	3
合計	7



【

④復興拠点ができたら、あなたは利用する／したいと思いますか。

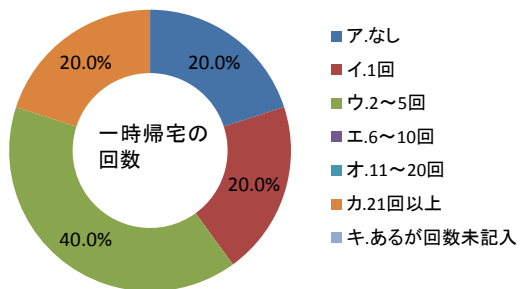
	回答数	構成比
ア. 思う	3	60.0%
イ. わからない	2	40.0%
ウ. 思わない	0	0.0%
合計	5	100.0%



【大熊町とのつながりについて】

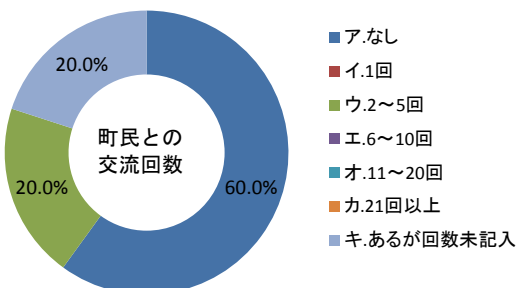
⑤昨年（平成 29 年）中、一時帰宅で大熊町内に何回程度立ち入りましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	1	20.0%
イ. 1 回	1	20.0%
ウ. 2～5 回	2	40.0%
エ. 6～10 回	0	0.0%
オ. 11～20 回	0	0.0%
カ. 21 回以上	1	20.0%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	5	100.0%



⑥昨年（平成 29 年）中、大熊町民と何らかの交流の機会がありましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	3	60.0%
イ. 1 回	0	0.0%
ウ. 2～5 回	1	20.0%
エ. 6～10 回	0	0.0%
オ. 11～20 回	0	0.0%
カ. 21 回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入（多数との答）	1	20.0%
合計	5	100.0%



【その他意見】

- (震災前の大熊町で人と会ったり、しゃべったりした場所は、) 集会所。
- (現在の生活での交流の場所や機会は、) 行かない。
- 大川原復興商業施設に申込み、出店が決定次第帰還したい。協力したい。(出店できない場合はまた考える)。

日 時：平成 30 年 2 月 4 日（日曜）13:00～14:30
対応者：大熊町企画調整課 高田課長補佐
記録員：UR都市機構復興拠点事業推進課 亀若課長
班 名：A班
出席者数：6名

■ヒアリングでの主な意見

【交流ゾーンに望む施設・機能】

- ・ 食堂やカフェのような飲食できる場所や活動できる場所として、スポーツセンターやカラオケ、呑み屋、コインランドリー、図書があったらよい。コインランドリーも待っている間に交流が生まれる。
- ・ 1階店舗で2階に人が溜まれる空間があるとよい。
- ・ パークゴルフ場は起伏のあるコースの方が面白い。パークゴルフ場と温浴施設を合わせて利用してもらうことが重要。
- ・ 夏場に水路と絡めて、蛸を成育して観賞できるとよい。
- ・ 宿泊施設でいうと、宿泊施設に生鮮キッチンや鍋があって、そこで料理したい人がすればよい。面倒くさい人は食堂で、ご飯を食べるような選択肢があるとよい。
- ・ 色々な人が泊まりたくなるような宿泊施設があると、遠方から人が来てくれる。
- ・ 保育所は必要。
- ・ 温泉を掘って「復興の湯」として銘打って行えるとよい。

【大熊町との繋がり・交流】

- ・ 大熊町との係りの頻度では、毎日繋がりがある人もいるが、年3回程の人もある。また、総会のタイミングでしか会う機会が無い人もいる。町の人と会う機会があるのは不幸があった時程度しか機会が無い。他県に避難している方と一緒に交流できる機会があるとよい。
- ・ 交流会の場はあるが、比較的高齢者が中心ということもあって若年層の世代が輪に入りづらい。もともとメンバーが固定されているため、新しく集団で入ることは難しい。
- ・ 町で従前からふるさと祭りを開催しており、そういったものを大川原地区で復活できれば、人が集まりやすい。

【特性】

- ・ 大熊町ならではの特色として名産の梨やキウイが挙げられる。たまごの郷も昔からあったということで、その卵を使ったケーキの販売やパン屋などが挙げられていた。
- ・ いろりの里や坂下ダムから見える桜の風景。玉乃湯や国道 288 号から見える秋の紅葉も素晴らしい。
- ・ 近所の神社にある御神木の杉等の風景も思い出される。
- ・ 昔、頭森公園にあった子供神輿を再生できればよい。
- ・ 聖徳太子神社のようなものを移設できれば、拠り所となる。

【交通】

- ・ 人が集まる交流ゾーンでは、車で来る人もいるので、駐車場がほしい。
- ・ 大川原に集まってきてもらえるのは電車や車になるが、常磐線のアクセスも鍵となる。車の移動を考えると、ガソリンスタンドがあった方がよい。



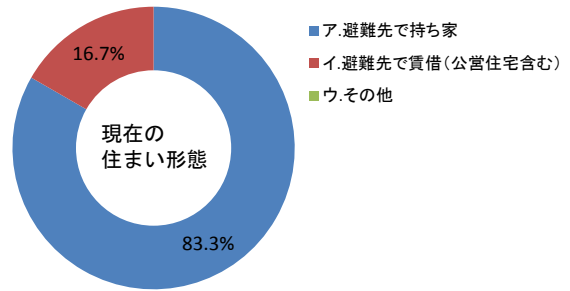
■付箋内容

- ・ スポーツセンター、カラオケ、呑み屋、コインランドリー
- ・ 食堂、カフェ
- ・ 図書（1F 店舗、2F に溜まれる場所）
- ・ パークゴルフ場（起伏があった方が面白い）
- ・ パークゴルフと温泉がセットで
- ・ ホタルの育成、鑑賞
- ・ 宿泊に備え付けのキッチン鍋（→館にも行ける）
- ・ 泊まってみたいと思えるような宿泊施設
- ・ 宿泊施設があれば遠くからも来られる
- ・ 保育所は？
- ・ 温泉掘ったらどう？
- ・ 毎月、3回、総会
- ・ 交流会はあるが、若年世代新規の者は入りづらい（固定メンバー）
- ・ 他県に避難している人と交流したい
- ・ ふるさと祭りの復活
- ・ 不幸があった時に町の人と会える
- ・ 梨（土のつくり方、買うのではなく頂いて、元の場所では無理）
- ・ いろいろの里、坂下ダム桜、日隠山
- ・ キウイ、たまごの郷、ケーキ屋のぶや、パン屋かむら
- ・ 玉乃湯
- ・ R288 沿いの紅葉、神社の大杉
- ・ 子どもみこし（→頭森公園桜）、聖徳太子（→移動）
- ・ 駐車場足りるのか？
- ・ 車、電車含めアクセスが大事
- ・ ガソリンスタンド
- ・ いっぺんに全部やらなくても順次整備できる拡張性をもたせておく
- ・ 夏場の蛍、水辺との関連、コンクリート護岸では×

■事前アンケート集計結果について（A班）回収6人
【生活拠点について】

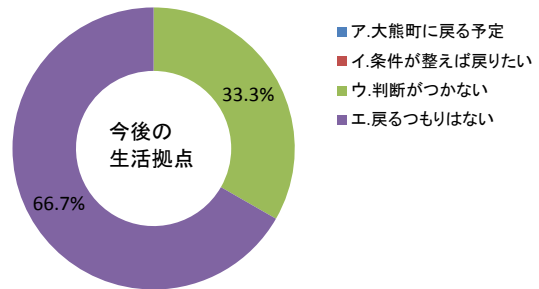
①現在のお住まいの形態について

	回答数	構成比
ア. 避難先で持ち家	5	83.3%
イ. 避難先で賃借（公営住宅含む）	1	16.7%
ウ. その他	0	0.0%
合計	6	100.0%



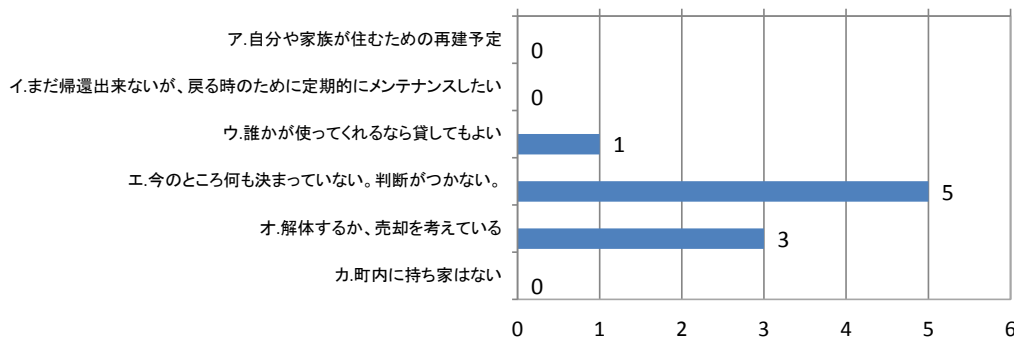
②今後の生活の拠点について

	回答数	構成比
ア. 大熊町に戻る予定	0	0.0%
イ. 条件が整えば戻りたい	0	0.0%
ウ. 判断がつかない	2	33.3%
エ. 戻るつもりはない	4	66.7%
合計	6	100.0%



③大熊町内のご自宅について（複数回答可）

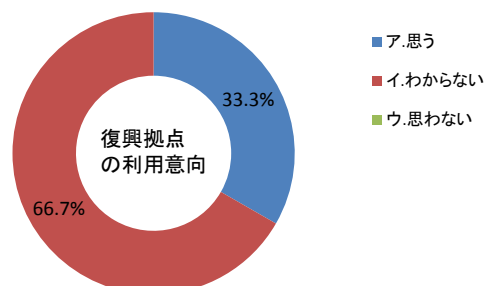
	回答数
ア. 自分や家族が住むための再建予定	0
イ. まだ帰還出来ないが、戻る時のために定期的にメンテナンスしたい	0
ウ. 誰かが使ってくれるなら貸してもよい	1
エ. 今のところ何も決まっていない。判断がつかない	5
オ. 解体するか、売却を考えている	3
カ. 町内に持ち家はない	0
合計	9



【復興拠点について】

④復興拠点ができたら、あなたは利用する／したいと思いますか。

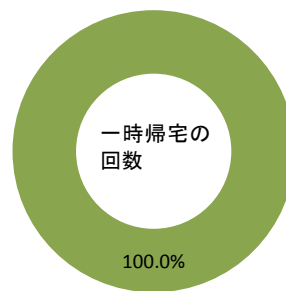
	回答数	構成比
ア. 思う	2	33.3%
イ. わからない	4	66.7%
ウ. 思わない	0	0.0%
合計	6	100.0%



【大熊町とのつながりについて】

⑤昨年（平成 29 年）中、一時帰宅で大熊町内に何回程度立ち入りましたか。

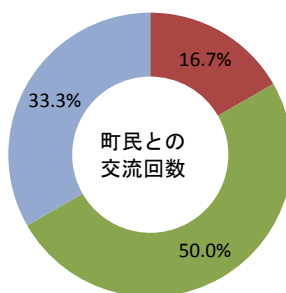
	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1回	0	0.0%
ウ. 2～5回	6	100.0%
エ. 6～10回	0	0.0%
オ. 11～20回	0	0.0%
カ. 21回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	6	100.0%



- ア. なし
- イ. 1回
- ウ. 2～5回
- エ. 6～10回
- オ. 11～20回
- カ. 21回以上
- キ. あるが回数未記入

⑥昨年（平成 29 年）中、大熊町民と何らかの交流の機会がありましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	0	0.0%
イ. 1回	1	16.7%
ウ. 2～5回	3	50.0%
エ. 6～10回	0	0.0%
オ. 11～20回	0	0.0%
カ. 21回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	2	33.3%
合計	6	100.0%



- ア. なし
- イ. 1回
- ウ. 2～5回
- エ. 6～10回
- オ. 11～20回
- カ. 21回以上
- キ. あるが回数未記入

【その他意見】

- ・ 特になし

日時：平成30年2月4日（日曜）13:00～14:30

対応者：大熊町企画調整課 喜浦主事

記録員：UR都市機構震災復興支援室事業管理課 桃原主幹

班名：B班

出席者数：6名

■ヒアリングでの主な意見

【交流ゾーンに望む施設・機能】

- ・ スーパーや居酒屋、お寿司屋、スナックや焼鳥屋。
- ・ クリーニング屋が無く困っていると聞いている。作業員のために必要。
- ・ 大川原のまちづくりのテーマ：他の町と同じものを作っても仕方ない。例えば、いまは高齢者施設が不足しているので、福祉や高齢者のための施設を整備した方がよい。高齢者施設と併せて、近くに商業施設や医療施設が必要。また、高齢者施設は入居費用が高いので、年金で入れる施設を町で整備してほしい。
- ・ 若い人向けの施設も必要。例えばツタヤやゲオのようなレンタル屋が無いということと、ジムやトレーニング施設、ゴルフの打ちっぱなしなどが必要。また、若い人には子供がいるだろうから、町独自の教育で、例えば海外との交流ができるようなものがあるとよい。
- ・ 高齢者に係らずパークゴルフ、ゲートボール、カラオケ、麻雀、外から来る人が合宿をするための施設等が必要。

【大熊町との繋がり・交流】

- ・ いまも、部落の行事、消防団の集まり、町民大会などで集まることがある。部落の行事は集まりが良く、90世帯中50世帯は集まっている。
- ・ この歳で繋がりというと、仕事関係や子供関係になって、それほどない。
- ・ なかなか町に来る機会も無く、町との繋がりはない。

【特性】

- ・ 以前は川釣りをしていた、サケやアユやイワナが釣れていた。図書館は立派で、中学生が勉強していた。駅前での祭り。そういった昔の良さ、懐かしさが感じられることが大事。

【帰還予定】

- ・ 色々なものができてくれば戻りたい。
- ・ 戻るために仕事が必要、雇用創出が必要。原発の廃炉もあるので、研究所などがあるとよい。

【交通】

- ・ 大川原は、国道6号線に面しているわけではなく、何かしらの通り道になるわけではないので、交流拠点を通して使ってもらうためには、例えば一時立ち入りの窓口になる等、この場所に来てもらう理由をつくる必要がある。



■付箋内容

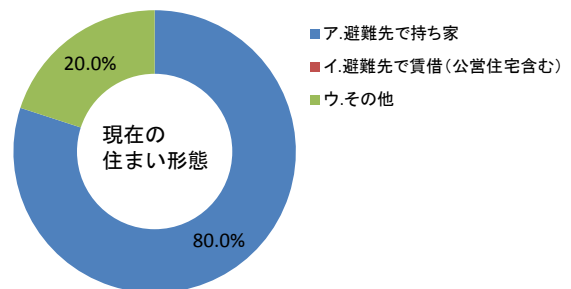
- ・ スポーツジム、プール、パークゴルフ、ゲートボール、カラオケ、麻雀
- ・ スーパー（酒屋）、居酒屋、お寿司屋
- ・ スーパー（広野も富岡も小さい。夕方品物が無くなる。時間も短い、富岡 11 時～19 時）
- ・ 若い人向けのもの（ex レンタル屋、ツタヤ、ゲオ）、ジム、トレーニングセンター、ゴルフ練習場
- ・ 調理室、そば打ち
- ・ 買物が一カ所で済むとよい
- ・ クリーニング、コインランドリー、スナック、焼鳥、中華、焼肉、牛丼屋
- ・ 高齢者施設が不足している。近くに医療機関、商業施設があるといい。年金で入れるところ
- ・ 町独自の教育（ex 海外との交流）
- ・ 他の町と同じものを作ってもしょうがない
- ・ 宿泊施設は平家？もったいないのではスーパーなどと合築した方がいいのでは
- ・ 合宿施設、スポーツ施設
- ・ 会社の人々が食事をしたり、日々使いできる施設が必要
- ・ 同じ年代で生活できる高齢者施設があるといい。一般的な年齢より少し若い世代から入れた方がいい
- ・ つながり（仕事、スポーツ少年団等の子供の関係、部落の行事、町民大会、消防団、今も集まりがある）
- ・ 各部落の集い、50 人くらいができるように、行政区の繋がりは強い
- ・ 年 1 回、2 回戻って一時帰宅、家を見るだけ
- ・ 日々の使い、イベント行事の時
- ・ 一時帰宅の際に通る場所なら、必然的に通る場所になれば
- ・ 川釣り、サケ、アユ、イワナ、ヤマメ
- ・ 図書館よかった勉強していた中学生が溜まって

- ・ 駅前の行事、祭り、町民運動会
- ・ なつかしさ、特色
- ・ イベント
- ・ 名産品、特産品 (ex いちご)
- ・ いろいろ整った後であれば戻りたい
- ・ 戸建て住宅は他の町でたくさんやっている、福祉の町、福祉のエリアにした方が戻ってくる人は多い
- ・ 戻るには仕事が必要、雇用創出、研究所→若い人、技術研究所など夢のある仕事がいい
- ・ 車が運転できないと不便、タクシーが待機していれば
- ・ 来る人は皆車、バスだと不便、駐車場が必要
- ・ 車が運転できる間は来たい

■事前アンケート集計結果について (B 班) 回収 5 人
【生活拠点について】

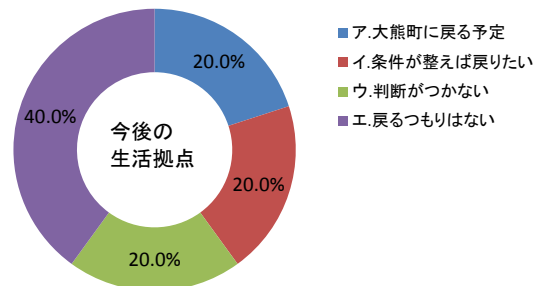
①現在のお住まいの形態について

	回答数	構成比
ア. 避難先で持ち家	4	80.0%
イ. 避難先で賃借 (公営住宅含む)	0	0.0%
ウ. その他	1	20.0%
合計	5	100.0%



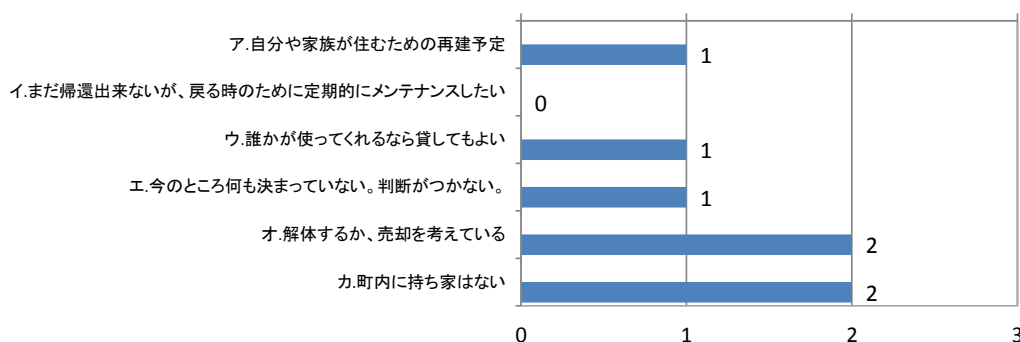
②今後の生活の拠点について

	回答数	構成比
ア. 大熊町に戻る予定	1	20.0%
イ. 条件が整えば戻りたい	1	20.0%
ウ. 判断がつかない	1	20.0%
エ. 戻るつもりはない	2	40.0%
合計	5	100.0%



③大熊町内のご自宅について (複数回答可)

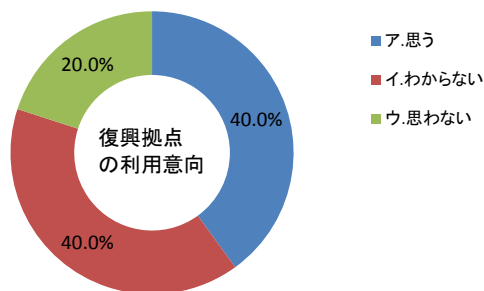
	回答数
ア. 自分や家族が住むための再建予定	1
イ. まだ帰還出来ないが、戻る時のために定期的にメンテナンスしたい	0
ウ. 誰かが使ってくれるなら貸してもよい	1
エ. 今のところ何も決まっていない。判断がつかない	1
オ. 解体するか、売却を考えている	2
カ. 町内に持ち家はない	2
合計	7



【復興拠点について】

④復興拠点ができたら、あなたは利用する／したいと思いますか。

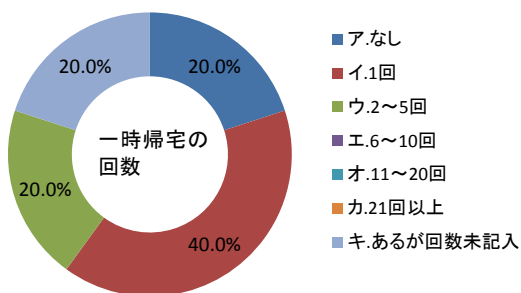
	回答数	構成比
ア. 思う	2	40.0%
イ. わからない	2	40.0%
ウ. 思わない	1	20.0%
合計	5	100.0%



【大熊町とのつながりについて】

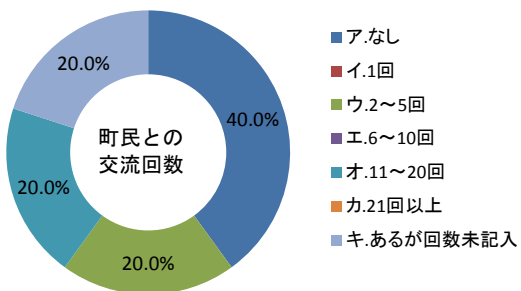
⑤昨年（平成 29 年）中、一時帰宅で大熊町内に何回程度立ち入りましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	2	40.0%
イ. 1 回	2	40.0%
ウ. 2～5 回	1	20.0%
エ. 6～10 回	0	0.0%
オ. 11～20 回	0	0.0%
カ. 21 回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	0	0.0%
合計	5	100.0%



⑥昨年（平成 29 年）中、大熊町民と何らかの交流の機会がありましたか。

	回答数	構成比
ア. なし	2	40.0%
イ. 1 回	0	0.0%
ウ. 2～5 回	1	20.0%
エ. 6～10 回	0	0.0%
オ. 11～20 回	1	20.0%
カ. 21 回以上	0	0.0%
キ. あるが回数未記入	1	20.0%
合計	5	100.0%



【その他意見】

- ・ 特になし

■2月3日のヒアリング結果概要

- 開催日時：平成30年2月3日（土）1部：10時～11時30分、2部：13時～14時30分
- 対象者：帰還したい・判断がつかない人（30代～60代）
- 参加者数：68人

※意見が多かったものは太字で表記

分類	主要な意見					
	交通・インフラ・公共施設	商業・飲食	医療・福祉・教育	娯楽・交流	行政活動・帰還	その他
町全体への要望	<ul style="list-style-type: none"> ■最低限のインフラ整備 ■駐車場の整備 ■大野駅、大川原、復興公園等を繋ぐモノレールの整備 ■避難区域要所へのトイレの設置 ■要所への水汲み場の設置 ■道路、店、建物は全てバリアフリー化 	<ul style="list-style-type: none"> ■大熊町名産である梨やキウイの活用 ■話ができるような店舗 ■ガソリンスタンド（高速道路や駅周辺） ■漁業の復活（稚魚を孵化） ■カラオケスナックやラーメン屋等、昔の馴染の店の再開（玉乃湯など） 	<ul style="list-style-type: none"> ■医療・介護・福祉施設（道路沿い、高齢者向け） ■駅前に病院 ■医療する人や見守る人がいると不安が払拭される 	<ul style="list-style-type: none"> ■釣り堀等（ダムへのヘラブナ釣り） ■家庭菜園 ■運動できる場所 ■大熊町で駅伝等が行えるとよい（交流の機会も増える） 	<ul style="list-style-type: none"> ■タブレットや広報による情報発信 ■町民の声をフィードバックする仕組み ■外から人が来てお金を落としてくれる仕組み ■掃除用具や庭の手入れ道具を貸してくれる場所、ゴミ捨場 	<ul style="list-style-type: none"> ■風評被害を払拭することが大事 ■除染終了場所への出入りができるようにしてほしい ■大川原から町全体に波及させてほしい ■住んで良かったと言える町 ■自分の家は特定復興再生拠点区域に入ったが、先行きが見えない
交流ゾーンへの要望	<ul style="list-style-type: none"> ■国道6号に真直ぐ出られる道路整備 	<ul style="list-style-type: none"> ■飲食店（週末も営業） ■金融機関 ■宴会所 ■郵便局 ■ガソリンスタンド ■新聞屋 ■美容室 ■日用品等が購入できる店舗（移動販売を行うと小回りが利く） ■敬老会や成人式のイベント終了後に楽しめるような店 ■墓参りの花や線香を買える店 	<ul style="list-style-type: none"> ■温浴施設 ■授乳スペース ■急病になった時にすぐに搬送ができる施設 ■バリアフリーにより高齢者が楽しめる施設 ■役場と交流・福祉施設の一体化 	<ul style="list-style-type: none"> ■パークゴルフができる運動施設（世界一のコース、温浴施設と一体化） ■仮眠できる休憩所 ■ニュースポーツを行うための体育館 ■健康・スポーツを町のテーマとし、Jリーグ基準を満たすスタジアム ■スポーツ・健康教室 ■カラオケサークル、民謡サークル活動 ■イベントで運動施設に人が集まれるようにできるとよい ■女性と子供が安心して楽しめる施設（広場は天然芝） ■共有農園や家庭菜園 ■作物を販売できる直売所 ■料理ができる調理室 ■高齢者や若者が集まれる場所 ■開放的で会話が楽しめる場所 	<ul style="list-style-type: none"> ■イベント企画（お祭り、新喜劇、利き酒会、地ビールづくり、地酒めぐりツアー、一過性ではないもの） ■店舗経営のための行政支援 ■外から人を呼び込む仕組み ■役場職員が常駐できるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ■人の育成（人がいないと商売も成り立たない） ■ここにしかないという工夫が必要 ■都会的な施設ではなく大熊らしい（田舎）ものがよい ■県道67号線から見えるようなガラス張りのホール ■温浴施設はイメージが大事なため、風評被害への対策 ■風評に対抗して、外の人に多く来てもらうようにしたい ■屋根付きのホール ■町のためになる施設にしてほしい ■溜まり場になるような場所 ■大川原に金をかけて施設を作るのは無駄
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■交通手段は、自家用車で鉄道はあまり使わない ■高齢になった時にいつまで運転できるか不安 ■会社の送迎バスで通勤しているため、途中でどこかに立ち寄ることはできない ■少人数の乗合い通勤の企業バスを活用できれば、交流施設の店に立ち寄れる 	<ul style="list-style-type: none"> ■買物にいかなくてよい宅配サービス ■漁業組合長をやっているのので鮭漁を再開してほしい 		<ul style="list-style-type: none"> ■行政区でイベントやツアーを企画、仕事をリタイアしたら参加したい ■大熊の人に仕事上でのつながりはあるがプライベートではない ■行政区の班の集まりが、月2回程度、年20回程度ある ■大熊は人とのつながりがよい ■集落の会合や漁業組合の総会などの行事に参加している ■交流会が頻繁に実施されてよい ■繋がりは「なじみの人」、「集落」、「自宅」 ■町民と会うペースについて、年2回程度、年間33回程度 ■日陰山等の高台から町を見下ろした風景 ■梨や鮭のような食物、熊川や坂下ダム、小塚の溜池等の風景 ■国道6号沿いのおおちゃんの熊の標識を見ると「大熊町に帰ってきた」と実感 ■誰がどこに避難しているのか分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ■一時帰宅の際は子供を連れて来ない ■掃除や雑草の処理、墓参り ■自宅を建替え済みなのですぐに帰還したい ■自宅はまだ新しいので解除になれば戻る ■避難指示が解除されたらすぐに帰還する ■職場が近いので早く帰還したい ■除染の予定が無いので帰還しない ■公営住宅にいつ入れるのか知りたい ■国道6号より西側の除染を進めてほしい ■熊川南側の除染を進めてほしい ■若い人が訪れるような広報活動を行ってほしい ■帰還して仕事をして15年後には後継者がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ■年代によって繋がり方は大きく違う ■次の世代の子供たちには大熊町に戻ってほしい ■自宅はもうじき避難解除されるので帰宅が比較的自由になる ■自宅の線量が高いため帰還できないが、他の土地でもよいので町に戻りたい ■一時帰宅が5時間以内と制限されているがもう少し長く居たい ■解体はしていないが悩んでいる ■ゆくゆくは解体撤去 ■線量が高い場所は立入が難しいため、帰る回数も減り解体を決めた ■手入れをしているが徐々に痛んでいる ■家の手入れをするが、いつ帰れるのか切なくなる ■100坪程度の分譲地があれば自分達で建物を建てる ■多くの人に来てもらうために足となる動線の確保が必要 ■自分の家が懐かしい。大熊は広くて、ゆったりとした生活ができた ■大川原に畑仕事のため毎日通っている

■2月4日のヒアリング結果概要

- 開催日時：平成30年2月4日（日）1部：10時～11時30分、2部：13時～14時30分
- 対象者：帰還しないが繋がり欲しい人（30代～60代）
- 参加者数：30人

※意見が多かったものは太字で表記

分類	主要な意見					
	交通・インフラ・公共施設	商業・飲食	医療・福祉・教育	娯楽・交流	行政活動・帰還	その他
町全体への要望	<ul style="list-style-type: none"> ■最低限震災前にあった施設は必要（施設を増やすなど以前よりも良くする必要あり） ■駐車場とトイレがセットで必要 ■次の発災時のために避難路整備が必要（福島空港を活用したトライアングル道路の活用や新たな道路整備・改良による避難路の確保が必要） 	<ul style="list-style-type: none"> ■大熊町名産の梨やキウイの活用 ■玉乃湯の再開 ■たまごの郷（卵を使ったケーキ屋やパン屋等） ■ガソリンスタンド 	<ul style="list-style-type: none"> ■病院、介護福祉施設（現在老人ホームは約700人待ち） ■色々整備が遅い（例えば、病院も現時点で何科できるのか分からない） 	<ul style="list-style-type: none"> ■運動する機会がほしい ■既存図書館と移動図書館で本のやり取りができるとよい ■大熊町の季節や自然を感じられる場所が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■若い人や新しい人に来てもらえるような取組み ■いまなら間に合う ■安定した生活を送るために、必要なものが整わないと戻れない ■昔、頭森公園にあった子供神輿の再生 ■聖徳太子神社等を移設できれば拠り所となる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ゴミ処理の余剰熱を利用した温水プールができるとよい
交流ゾーンへの要望	<ul style="list-style-type: none"> ■車利用者のための駐車場が必要 ■高齢化により車の運転ができなくなるのでシャトルバス等の交通手段が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■宿泊施設（泊まりたくなるような） ■飲食店（食堂、カフェ、レストラン、寿司屋、焼鳥屋、居酒屋、スナック） ■カラオケ ■商業施設 ■スーパー ■作業員のためのクリーニング屋やコインランドリー ■温泉の掘削（「復興の湯」） ■スポーツセンター ■図書館 ■墓地（年3回は通う） ■1階店舗で2階に人が溜まれる空間にするとよい ■若い人向けの施設（レンタルジム、ゴルフの打ちっ放し等） 	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢者福祉施設（周辺に商業施設や医療施設が必要） ■医療施設 ■保育所 ■温泉施設 ■年金で入居できる安い施設 ■海外との交流ができるような町独自の教育 	<ul style="list-style-type: none"> ■パークゴルフ場（起伏のあるコースは面白い、パークゴルフ場と温浴施設のセット） ■ゲートボール、グランドゴルフ ■将棋、囲碁、麻雀 ■キッチン（キッチンスタジオのようなもの、災害時炊き出しができる調理室） ■食事や会合ができるホール ■釣り ■卓球 ■レクリエーション ■ニュースポーツ ■外から来る人のための合宿施設 ■野菜作り、農園 ■水路での蛍の生育・観賞 ■ふるさと祭りを復活すれば人が集まる 	<ul style="list-style-type: none"> ■イベント開催（避難者のために他都市での開催も必要） ■将来を担う子供たちにも意見を聞く必要あり ■放射性廃棄物の安全性の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ■他の町と同様の施設を作っても仕方ない ■皆で一緒にできることが必要
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■大川原に来てもらうためには、常磐線のアクセスも鍵となる ■アクセスがあまりよくない交流拠点を使ってもらうためには、理由をつくる必要がある（一時立ち入りの窓口になる等） 	<ul style="list-style-type: none"> ■震災前と同じ業態でなくてもよいので、復興のためにまた店を開きたい 		<ul style="list-style-type: none"> ■町との交流は年6～7回程度、多い人は40回 ■町の人と会う機会は毎日、年3回程度、総会、不幸があった時程度 ■部落の行事や消防団の集まり、町民大会等で交流がある ■当時の隣近所の人との繋がりが一番町との繋がりが感じられる。（町民体育祭がふるさとの風景を感じられる） ■仕事関係や子供関係の繋がりが ■町に来る機会が無いため町との繋がりは無い ■他県等の避難者と交流できる機会があるとよい ■交流会の場は高齢者中心で若い人が入りづらい ■いろいろの里の風景 ■海や海岸沿いの松の風景 ■日隠山の風景 ■坂下ダムから見える桜の風景 ■国道288号から見える紅葉の風景 ■神社の御神木の杉の風景 	<ul style="list-style-type: none"> ■戻るためには仕事が必要のため、雇用創出が重要（原発廃炉もあるので、研究所等があるとよい） ■年3回、7回帰宅（去年は除染の関係で20回一時帰宅） ■住民票を移さずに、大熊町の住所でいつまで移転先に居られるのか 	<ul style="list-style-type: none"> ■荒廃した自分の家を見てもがっかりするだけ ■大川原は風向きで放射線線量が低かった（戊辰戦争時に難を免れた歴史がある） ■いずれは知り合いがいる大熊町に戻りたい ■故郷である大熊町の空気は他の町とは違う ■昔の良さ、懐かしさが感じられることが大事（サケやイワナ釣り、図書館で勉強する学生の姿、駅前祭り） ■色々なものができてくれば戻りたい ■年齢とともに町に戻りたい気持ちに変わってきた（皆戻りたいと思っているはず）